

福島県文化財センター白河館
年報 ～令和 2 年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

発 刊 に よ せ て

「見て・触れて・考え・学ぶ体験型フィールドミュージアム」として2001（平成13）年7月にオープンした福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は、本年の7月で20年を経過いたしました。本書は、19年目の取り組みとして実施した2020（令和2）年度の管理運営実績を総括するものです。

2020（令和2）年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、4月21日から5月15日までの間、臨時休館を余儀なくされました。また、臨時休館後も予定していた行事を中止せざるを得なくなったケースもありました。

その中において、企画展「ふくしま鉄ものがたりⅡ―鉄滓の山から読みとく歴史―」、収蔵資料展「ふくしま発掘最前線―十三遺跡記―」、ふくしま歴史探訪展「ようこそ！古墳時代へ―阿武隈川流域に暮らした人々―」、指定文化財展「法正尻遺跡展1―磐梯山麓最大の縄文集落―」の4回の企画展示を行いました。これらの企画展示に関連した文化財講演会等の開催については、6月から7月に予定していたものは中止しましたが、予定していた講演内容をweb上に公開しました。その後は感染症拡大を防止するため、定員を少数に絞り、事前申込制にするなどの対策を講じて実施しました。

現在、白河館は上記のような感染症拡大防止対策を図りながら、館の運営を行っております。このような状況下にあっても、文化財を未来につなぐという私たちの使命はもちろん変わりません。職員一同、これからもこれまでに鋭意努力する所存ですので、皆様には、変わらぬご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2021年12月

公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
館 長 菊 池 徹 夫



企画展「ふくしま鉄ものがたりⅡー鉄滓の山から読みとく歴史ー」



館長講演会 第5回「コロナ時代の考古学ニュースを解説する」

目 次

第1章 白河館の概要

- 1 白河館の業務……………1
- 2 白河館の沿革……………1
- 3 令和2年度の主な行事……………2
- 4 災害等の影響……………2

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

- 1 利用状況……………3
 - 1. 利用者数……………3
 - 2. 入館者数の内訳と傾向……………3
- 2 維持管理に関する業務……………5
 - 1. 建築物・設備・環境衛生・
外構等保守管理業務……………5
 - 2. 施設・設備等の修繕状況……………5
 - 3. 備品・物品管理業務……………5
- 3 文化財の収蔵・保管に関する業務……………6
 - 1. 収蔵資料……………6
 - 2. 資料貸し出し……………6
 - 3. 写真掲載等承認……………6
 - 4. 資料閲覧……………7
- 4 文化財の活用に関する業務……………8
 - 1. 常設展示……………8
 - 2. 企画展示……………10
 - 3. 講演会等……………17
 - 4. 体験学習・イベント……………18
- 5 文化財に関する情報発信……………22
 - 1. ホームページによる情報発信……………22
 - 2. SNSによる情報発信……………22
 - 3. まほろん通信の発行……………22
- 6 文化財に関する研修及び技術支援……………23
 - 1. 概要……………23
 - 2. 研修実施状況……………23
 - 3. 技術支援状況……………24
- 7 文化財の活用に関する調査研究……………25
 - 1. 文化財の調査……………25
 - 2. 体験学習における試み……………25
 - 3. 文化財等に関する情報収集……………25
 - 4. 研究紀要……………25

- 8 出土文化財の保存処理……………25
 - 1. 劣化防止等業務……………25
 - 2. 保存処理業務……………25
 - 3. 分類・データベース入力業務……………26
- 9 ボランティア活動の支援……………26
 - 1. 募集……………26
 - 2. 登録……………26
 - 3. 活動内容……………26
 - 4. 支援体制……………26
- 10 その他……………27
 - 1. 年報の発行……………27
 - 2. 運営協議会の開催……………27
 - 3. 博物館実習……………27
 - 4. 被災ミュージアム再興事業……………27
 - 5. 他機関との連携……………27

第3章 令和2年度の組織と管理運営費

- 1 組織……………29
- 2 管理運営費……………29

第4章 白河館施設の概要……………30

第5章 白河館の条例・規則

- 1 福島県文化財センター白河館条例……………32
- 2 福島県文化財センター白河館条例
施行規則……………32

白河館の利用案内……………33

第1章 白河館の概要

1 白河館の業務

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」。以下「白河館」と表記する。）は、文化財等を保管・活用することによって県民の文化の振興に資するため福島県が設置した文化施設であり、平成13年7月に開館した。

白河館は、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等を対象とする研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県は、開館から平成17年度まで、財団法人福島県文化振興事業団に館の管理運営業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入し、管理運営業務を行う法人等を広く公募することにした。第1期（平成18年度から平成20年度まで）は財団法人福島県文化振興事業団が指定管理者に選定され、以降、第4期の現在に至るまで、同財団（平成26年4月に現名称に変更）が管理業務を担っている。

条例に定める館の業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持補修及び管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

なお、令和元年度からは、出土文化財の保存処理等に関する業務が追加されている。

白河館は貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 白河館の沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県が財団法人福島県文化振興事業団に管理運営を委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に3か年の管理運営を委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に5か年の管理運営を委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで、館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日

東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日

震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外展示施設を除き、再開館

平成24年4月15日

野外展示施設修繕完了、使用を再開

平成24年5月3日

一般収蔵庫修繕完了、使用を再開

平成24年5月19日

開館10周年記念事業を実施

平成26年2月8日 入館者40万人到達

平成26年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（平成31年3月31日まで）

平成27年12月5日 入館者45万人到達

平成28年9月25日

開館15周年記念事業を実施

平成29年9月2日 入館者50万人到達

平成31年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（令和6年3月31日まで）

3 令和2年度の主な行事

令和2年4月11日～5月10日

企画展「ふくしま鉄ものがたりⅡ―鉄滓の山から読みとく歴史―」（新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い4月21日から5月15日まで臨時休館）

令和2年6月6日～8月30日

収蔵資料展「ふくしま発掘最前線―十三遺跡記―」

令和2年8月8日～8月16日

まほろん夏休み特別体験

令和2年9月26日～12月13日

ふくしま歴史探訪展「ようこそ！古墳時代へ―阿武隈川流域に暮らした人々―」

令和2年11月1日～11月29日

まほろん感謝月間

令和3年1月23日～3月28日

指定文化財展「法正尻遺跡展1―磐梯山麓最大の縄文集落―」



まほろん夏休み特別体験

4 災害等の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発令され、令和2年4月21日から5月15日まで臨時休館となった。その後も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月から7月に開催を予定していた館長講演会と文化財講演会・シンポジウムを中止するとともに、団体受け入れ基準を制限し、1日に大人数が来館する形態のイベントは中止とした。

また、福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した博物館の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を当館の敷地内に設置している。本施設には、福島県被災文化財等救援本部により救出された、富岡町歴史民俗資料館・大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

令和2年度の総利用者数は、23,120名（令和元年度27,718名）で、前年度に比べ4,598名の減少となった。入館者数は、11,249名（令和元年度23,679名）、館外利用者数は、11,871名（令和元年度4,039名）であった。

入館者数については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い4月21日から5月15日まで臨時休館したこと、及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のため団体の受け入れを制限したことなどにより前年度から大幅な減少となった。

館外利用については、小・中学校等の教育機関を対象とする「おでかけまほろん」を8箇所、また、福島市・富岡町・南相馬市・矢吹町の4箇所で開催したまほろん移動展や研修会等を含めた館外利用者の総数は、前年度に比べ7,832名増加した。これは、福島県立図書館で実施した移動展が、休館明けの図書館の利用者増もあり盛況に終わった結果を反映した。

2. 入館者数の内訳と傾向

入館者数は、11,249名（令和元年度23,679名）となった。

（1）地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が9,977名（令和元年度18,781名）で88.7%（令和元年度79.3%）、県外が1,272名（令和元年度4,898名）で11.3%（令和元年度20.7%）であった。白河市内からの入館者は5,195名（令和元年度8,979名）で前年度に比べ3,784名減少した。

（2）年齢別利用状況

幼児、小・中学生、高校生が2,894名で、入館者全体の25.7%（令和元年度40.2%）、一般の入館者数は8,355名で、入館者全体の74.3%（令和元年度59.8%）となり、前年度に比べ、一般の入館者の割合が増加した。

（3）団体利用状況

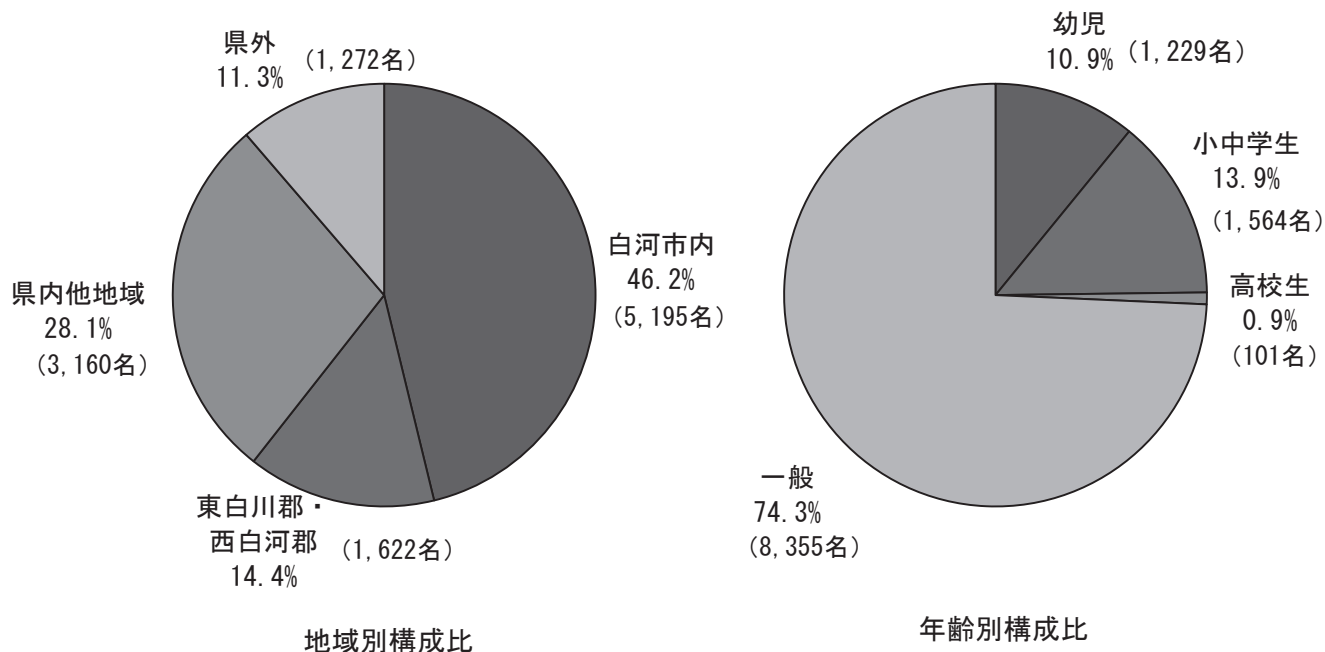
入館した団体数は36団体（令和元年度は192団体）、団体による来館者数は735名（令和元年度6,864名）となり、前年度から6,129名減少した。

なかでも小学校の利用は、前年度の59校から12校に大幅に減少した

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館を実施したこと、団体の受け入れ基準を制限したことなどが大きく影響した。

月別入館者数

令和2年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	令和元年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	60	302	325	37	362	0	362	2,355	0
5月	72	275	336	11	347	0	347	3,135	0
6月	192	559	684	67	751	8,812	9,563	2,250	1,079
7月	251	801	920	132	1,052	385	1,437	2,418	80
8月	567	1,010	1,381	196	1,577	764	2,341	2,755	59
9月	356	728	975	109	1,084	644	1,728	1,939	38
10月	346	982	1,149	179	1,328	440	1,768	1,405	437
11月	412	904	1,170	146	1,316	11	1,327	2,332	2,103
12月	106	499	523	82	605	36	641	1,270	43
1月	124	554	618	60	678	140	818	1,070	170
2月	215	931	1,023	123	1,146	313	1,459	1,835	30
3月	193	810	873	130	1,003	326	1,329	915	0
合計	2,894名	8,355名	9,977名	1,272名	11,249名	11,871名	23,120名	23,679名	4,039名



団体利用者一覧

団 体			令和2年度													令和元年度	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計	
学校 関係	幼稚園・保育園	園数							1			2	1	1	5	6	
		来館者数							8			20	8	8	44	152	
	小学校	学校数			2			5	2				1	2	12	59	
		来館者数			95			160	71				36	16	378	3,042	
	中学校	学校数									1				1	4	
		来館者数									21				21	165	
	高等学校	学校数							2						2	1	
		来館者数							31						31	5	
	養護学校	学校数													0	1	
		来館者数													0	28	
	大学	学校数								1					1	6	
		来館者数								27					27	170	
	幼小中高PTA (保護者のみ)	学校数													0	1	
		来館者数													0	33	
	幼小中高PTA (親子レク等)	学校数													0	15	
		来館者数													0	740	
生涯学 習関係	研究会	会数													0	3	
		来館者数													0	106	
	子ども会	会数													0	3	
		来館者数													0	93	
	公民館等	館数							1	1					2	23	
		来館者数							14	9					23	641	
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数				4								4	20		
		来館者数				22								22	343		
文化団 体関係	資料館等	館数						1	2					3	2		
		来館者数						30	50					80	51		
	歴史研究	団体数												0	7		
		来館者数												0	126		
行政機 関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数											1	1	3		
		来館者数											11	11	57		
その他	その他	団体数					1	4						5	38		
		来館者数					8		90					98	1,112		
合計	団体数		0	0	2	4	1	5	11	4	1	2	2	4	36	192	
	団体来館者数		0	0	95	22	8	160	244	86	21	20	44	35	735	6,864	
総来館者数			362	347	751	1,052	1,577	1,084	1,328	1,316	605	678	1,146	1,003	11,249	23,679	
団体利用者の割合（％）			0.00%	0.00%	12.65%	2.09%	0.51%	14.76%	18.37%	6.53%	3.47%	2.95%	3.84%	3.49%	6.53%	28.99%	

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務」の仕様書に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 建築基準法第12条定期点検業務
(株) 兼子組
- (2) 空調設備点検業務
常光サービス(株)
- (3) 消防用設備等保守点検業務
大槻電気通信(株)
- (4) 電話設備等点検業務
(株) ユニテック
- (5) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
常光サービス(株)
- (6) 自動ドア保全業務
常光サービス(株)
- (7) 自家用電気工作物保安管理業務
(一財) 東北電気保安協会福島事業本部
- (8) 展示用及び講堂用AV機器保守点検管理業務
(株) オリエンタル・エージェンシー
- (9) 植栽管理業務
(有) 西牧植園
- (10) 清掃業務
(株) タイセークリーン
- (11) 除雪業務
(有) 猪越土木
- (12) 警備業務
A L S O K 福島(株)

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 令和2年6月1日
誘導灯修繕
- (2) 令和2年6月5日
本館棟南側出入口等梁取合シール処理
- (3) 令和2年6月23日
野外展示「前方後円墳」修繕
- (4) 令和2年6月30日
職員通用口電気錠修繕
- (5) 令和2年8月24日
電話交換機設備修繕

- (6) 令和2年8月28日
電気湯沸かし器ボールタップ交換修繕
- (7) 令和2年12月14日
常設展示室空調室外機修繕
- (8) 令和2年12月19日
特別収蔵庫フィルターユニット等修繕
- (9) 令和3年1月5日
常設展示室空調室外機修繕
- (10) 令和3年2月22日
一般展示室・特別展示室空調設備修繕
工事設計委託(福島県直轄事業)
- (11) 令和3年3月1日
空調室外機保全整備
- (12) 令和3年3月12日
電話設備防雷装置設置修繕
- (13) 令和3年3月31日
排煙設備修繕工事(福島県直轄事業)



野外展示「前方後円墳」

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(箱)
一般収蔵庫	51,047	3,393	1,217	525	10	56,192
特別収蔵庫	730					730
合計	51,777	3,393	1,217	525	10	56,922

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属質遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物 (10件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
令2.4.1～令3.3.31	原町火力発電所（常設展示）	南相馬市大船迫A遺跡出土砂鉄ほか	23
令2.4.1～令3.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳出土須恵器	1
令2.4.1～令3.3.31	白河市歴史民俗資料館（常設展示）	白河市一里段A遺跡出土石器ほか	5
令2.4.1～令3.3.31	福島県立博物館（常設展示・継続分）	桑折町平林遺跡出土石器ほか	1,229
令2.4.9～令3.5.9	南相馬市博物館（企画展「南相馬の記念物90年」）	南相馬市横大道製鉄遺跡出土炉壁	12
令2.9.2～令2.12.25	新潟市文化財センター（企画展「天王山式土器から見た東日本の弥生社会」）	会津坂下町能登遺跡出土土器ほか	8
令2.9.11～令2.12.10	福島県立博物館（企画展「発掘された日本列島2020」）	須賀川市高木遺跡出土土器ほか	56
令2.9.18～令2.12.9	茨城県立歴史館（特別展「Jomon period—縄文の美と技、成熟する社会—」）	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土土器ほか	40
令2.9.22～令2.12.23	福島市じょーもびあ宮畑（企画展「土偶の世界～集結！国宝土偶レプリカ5体と福島の土偶展～」）	須賀川市一斗内遺跡出土土偶ほか	13
令2.11.26～令3.3.31	原町火力発電所（常設展示・新規分）	大迫遺跡出土土師器ほか	3
		合 計	1,390

(2) 模型及びレプリカ (2件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量 (点)
令2.4.1～令3.3.31	福島県立博物館（常設展示・継続分）	獣脚付容器（復元品）ほか	19
令2.4.1～令2.9.30	福島県立図書館	民俗芸能DVD	96
		合 計	115

3. 写真掲載等承認 (29件)

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量 (点)
令2.4.14	一般財団法人とうほう地域総合研究所「機関紙福島の進路および同研究所ホームページ福島の進路」	郡山市徳定A遺跡人面付土器	1
令2.5.22	世界思想社教学社「大学入試シリーズ日本福祉大学2021-2023版」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	1
令2.6.2	志村明彦「古代史日和ホームページ」	郡山市荒小路遺跡土偶	1
令2.6.3	いわき市考古資料館「令和2年度第1回企画展写真パネル」	復元品「いわき市中田横穴馬具」	1
令2.6.23	㈱集英社「学習まんが日本の歴史（ポータブル版）3巻（仮）」	復元住居「奈良時代の住居」	1
令2.7.16	福島市じょーもびあ宮畑「企画展（仮）土偶の世界」展示図録	郡山市荒小路遺跡土偶他	14
令2.8.11	佐藤俊「福井県陶芸館 令和3年度春季特別展「ECHIZEN BRAND-中世に華開いた越前焼-（仮）展示図録」	喜多方市高堂太遺跡陶器	1
令2.9.8	郡山市「大安場史跡公園ガイダンス施設展示パネル」	郡山市弥妙遺跡石器	5
令2.9.8	福島県立博物館「令和2年度秋の企画展 発掘された日本列島2020展示パネル」	須賀川市高木遺跡	6

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量 (点)
令2.9.17	(有)オフィス・イディオム「(株)学研プラス 学習まんがDVD付き NEW日本の歴史」	常設展示「古墳時代の家」他	2
令2.9.17	茨城県立歴史館「令和2年度特別展 Jomon Period-縄文の美と技、成熟する社会- 展示図録、解説パネル等」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器他	8
令2.9.30	(株)ムーブ「昭文社 福島のトリセツ」	南相馬市大船迫A遺跡15号製鉄炉他	3
令2.10.9	大玉村「おおたま学」	須賀川市高木遺跡土師器	1
令2.11.5	明治図書出版(株)「国語の学習3年」	復元品「弓を射る白河軍団兵士」	1
令2.11.17	塚本師也「令和2年11月22日第5回ふみの森もてぎ『那珂川流域における縄文土器の地域性』他における講演会発表」	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	1
令2.12.8	神奈川県 あつぎ郷土博物館「基本展示室融合展示コーナー展示解説パネル」	常設展示「奈良・平安時代の家」	1
令2.12.8	(株)光文書院「社会科資料集6年（デジタル教材）」	弥生時代の鍬（復元品）	1
令2.12.15	あいづね情報出版舎「月刊 会津嶺 1月号」	柳津町石生前遺跡出土縄文土器他	3
令2.12.23	千葉県 市川考古博物館「堀之内貝塚解説映像コンテンツ」	復元住居「縄文時代の住居」	1
令3.1.26	竹倉史人「晶文社『土偶を読む』（仮）」	郡山市荒小路遺跡土偶他	4
令3.2.10	茨城県東海村（仮称）歴史と未来の交流館「東海村二本松古墳出土馬具の解説パネル、展示図録」	常設展示「古墳時代の馬」	1
令3.2.12	郡山市教育委員会「令和3年度 ふるさと郡山の歴史」	三春町柴原A遺跡土偶	1
令3.2.25	福島県立博物館「広報紙なじよな、令和3年度催し物案内」	会津若松市西木流C遺跡木製品他	7
令3.2.25	下野市教育委員会「しもつけ風土記の丘資料館常設展示パネル、図録、解説情報コンテンツ」	多賀城に向かう軍団兵士（復元品）他	3
令3.2.25	みやま文庫「みやま文庫第241号 鉄が語る群馬の古代史」	南相馬市長湊遺跡炉底滓	1
令3.3.12	実教出版株式会社「日本史探求」（高等学校用検定教科書）	寺脇貝塚出土の釣針・鉾	2
令3.3.19	実教出版株式会社『精選日本史探求』	弩（復元品）	1
令3.3.19	歴史春秋出版株式会社「ふくしまの地域社会を活かす人々」	相馬市藩境土塁他	2
令3.3.25	歴史春秋出版株式会社「ふくしまの地域社会を活かす人々」	二本松市小手森城位置図他	3
		合 計	78

4. 資料閲覧

(1) 遺 物 (15件)

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量 (点)
令2.6.24	県内研究者（企画展の事前調査）	須賀川市高木遺跡土師器他	45
令2.6.26	県内研究者（企画展の事前調査）	郡山市荒小路遺跡土偶他	14
令2.7.12	県外研究者（調査研究）	会津坂下町大村新田遺跡縄文土器他	2,016
令2.7.18・19	県外研究者（企画展の事前調査）	会津坂下町能登遺跡弥生土器他	1,212
令2.7.31	県外研究者（調査研究）	二本松市トロミ遺跡土師器	11
令2.7.24	県外研究者（調査研究）	白河市一里段A遺跡縄文土器他	3,540
令2.10.17・18	県外研究者（調査研究）	泉崎村関和久遺跡瓦他	30
令2.10.25	県外研究者（調査研究）	平田村空釜B遺跡縄文土器他	100
令2.11.10・11	県外研究者（調査研究）	郡山市北向遺跡縄文土器他	110
令2.11.18	県外研究者（調査研究）	飯舘村羽白D遺跡石器他	7
令2.11.19	県内研究者（調査研究）	矢吹町弘法山古墳群ガラス玉他	100
令2.11.26	県内研究者（調査研究）	国見町下入ノ内遺跡土師器	48
令2.12.11・12	県外研究者（調査研究）	本宮市高木遺跡縄文土器他	78
令3.2.19	県内研究者（コーナー展の事前調査）	いわき市大猿田遺跡木製品他	7
令3.2.26	県内研究者（調査研究）	国見町矢ノ目遺跡石製模造品他	70
		合 計	7,388

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「まほろんの逸品」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
 - 〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
 - 〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
 - 〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
 - 〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
 - サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」

⑤「展示コーナーA」(旧みんなの研究ひろば)

⑥「クイズ福島歴史発見」

⑦「のぞいてみよう福島の遺産」

⑧「展示コーナーB」(旧話題の遺跡)

⑨「展示コーナーC」(旧しらかわ歴史名場面)

⑩「国指定重要文化財 法正尻遺跡」

⑪映像展示

※⑤⑧⑨は、コーナー名称にとらわれず、フレキシブルに展示スペースを活用するため名称を変更した。

(2) 展示替え

令和2年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業との関連をもたせる内容とした。

展示替え一覧

コーナー	タイトル	開催期間	所有者	備考
まほろんの逸品	まとまって出土したヘラ状石器 磐梯町天光遺跡	令2.4.1～5.31	福島県教育委員会	
	我らちっちゃいものクラブ 飯舘村羽白C遺跡	令2.6.2～7.31	福島県教育委員会	
	祈りを石に託して 新地町師山遺跡	令2.8.1～9.30	福島県教育委員会	
	玉に願いを 須賀川市沼平遺跡	令2.10.2～11.29	福島県教育委員会	
	アスファルトは縄文時代の接着剤?? 国見町川原遺跡	令3.1.5～4.9	福島県教育委員会	
展示コーナーA (旧みんなの研究ひろば)	文化財を未来に伝える～保存科学の取り組み～	令2.4.1～9.9	白河館・福島県教育委員会	令和元年度からの継続
	まほろん収蔵の銭貨	令2.9.10～令3.1.22	福島県教育委員会	
	森塾生の活動	令3.1.19～3.31		
	双葉・大熊の生業(なりわい)①	令3.1.23～3.31	双葉町教育委員会 大熊町教育委員会	
展示コーナーB (旧話題の遺跡)	須賀川市高木遺跡	令2.4.1～5.27	福島県教育委員会	令和元年度からの継続
	実技講座 土器づくり上級編 展	令2.5.28～8.28	実技講座受講者・福島県教育委員会	
	まほろん収蔵の大堀相馬焼	令2.8.29～令3.1.22	福島県教育委員会	
	双葉・大熊の生業(なりわい)②	令3.1.23～3.31	双葉町教育委員会 大熊町教育委員会	
展示コーナーC (旧しらかわ歴史名場面)	中通り南部の製鉄遺跡	令2.4.1～8.16	福島県教育委員会	令和元年度からの継続
	阿武隈川流域の旧石器時代遺跡	令2.8.18～令3.1.22	福島県教育委員会	
	双葉・大熊の生業(なりわい)③	令3.1.23～3.31	双葉町教育委員会 大熊町教育委員会	
国指定重要文化財 公開	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器	令2.4.1～5.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令2.6.2～7.31		国指定重要文化財
		令2.8.1～9.30		国指定重要文化財
		令2.10.1～11.29		国指定重要文化財
新春干支特別展示	新春『丑』特別展示	令3.1.5～2.23	福島県教育委員会	

1) 学芸員がおすすめする収蔵品を「まほろんの逸品」として、計5回の展示を行った。

2) 「展示コーナーA」(旧みんなの研究ひろば)

このコーナーは、歴史や文化財等に関する研究を紹介するほか、令和2年度は、白河館の仮保管施設で保護されている双葉町・大熊町の資料を展示した。

令和2年度は、計4回の展示を行った。

◆文化財を未来に伝える

～保存科学の取り組み～(令和元年度からの継続)

発掘調査で出土した木質・金属質遺物の保存処理工程の解説パネルや、使用している道具なども展示して、文化財を未来に残していくための保存科学の取り組みをわかりやすく紹介した。

◆まほろん収蔵の銭貨

福島県内の遺跡から出土したさまざまな銭貨を展示した。

◆森塾生の活動

小学4年生～中学生を対象とした通年型の体験学習である森の塾の活動の成果をパネル等で紹介した。

◆双葉・大熊の生業(なりわい)①

福島第一原子力発電所の事故以降、白河館の仮保管施設で保護されている双葉町・大熊町の考古資料や近現代の民具などを展示した。



「双葉・大熊の生業(なりわい)①」

3) 展示コーナーB(旧話題の遺跡)

県内の文化財情報を収集し、話題性のある資料を速報的に展示するコーナーである。企画展や他の展示コーナーに関連する資料を紹介し、

展示室全体が有機的に関連するよう努めている。

また、令和2年度は、実技講座に関連する展示を行った。

令和2年度は計4回の展示を行った。

◆須賀川市高木遺跡(令和元年度からの継続)

令和元年度に白河館に収蔵された須賀川市高木遺跡の古墳時代前期の資料を展示した。

◆実技講座 土器づくり上級編展

参加者の作品と、手本にした白河館収蔵の縄文・弥生土器を並べて展示した。

◆まほろん収蔵の大堀相馬焼

実技講座「大堀相馬焼に挑戦」の関連展示として、双葉郡浪江町から出土した大堀相馬焼と、講師の山田慎一氏の作品を展示した。

◆双葉・大熊の生業(なりわい)②

福島第一原子力発電所の事故以降、白河館の仮保管施設で保護されている双葉町・大熊町の考古資料や近現代の民具などを展示した。

4) 「展示コーナーC」(旧しらかわ歴史名場面)

このコーナーは、地元自治体と連携した展示も行いながら、白河地域の文化財について理解を深める展示を目的としている。

令和2年度は、計3回の展示を行った。

◆中通り南部の製鉄遺跡(令和元年度からの継続)

中世から近世の製鉄遺跡(須賀川市銭神G遺跡他)の出土資料を展示した。

◆阿武隈川流域の旧石器時代遺跡

後期旧石器時代の石川町上悪戸遺跡、薬師堂遺跡・白河市一里段A遺跡・玉川村江平遺跡・郡山市弥明遺跡の出土の石器を展示した。

◆双葉・大熊の生業(なりわい)③

福島第一原子力発電所の事故以降、白河館の仮保管施設で保護されている双葉町・大熊町の考古資料や近現代の民具などを展示した。

5) 国指定重要文化財の公開

磐梯町・猪苗代町に所在する法正尻遺跡から出土した遺物のうち、国指定重要文化財の縄文土器などを選び、4月から計4回の展示を行った。

6) 新春干支特別展示

令和3年新春を迎えるにあたり、干支「丑」にちなんだ展示を行った。牛や丑の文字が書か

れた墨書土器や古墳時代後期の牛の足跡の剥ぎ取り資料などを展示した。

（３）展示資料のメンテナンス等

常設・野外展示資料及び施設の状態について、定期的に点検を実施し、軽微な修繕については、展示担当の学芸員が行った。

また、専門業者に依頼した野外展示の修繕箇所は以下の通りである。

◆前方後円墳

経年劣化により擬石の一部が破損したため、修繕を行った。

２．企画展示

（１）「ふくしま鉄ものがたりⅡ―鉄滓の山から読みとく歴史―」

会期：令和２年４月１１日（土）～５月１０日（日）
（開催日数８日：新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い４月２１日から５月１５日まで臨時休館したため）

観覧者数：１６６人

１）趣旨と方法

令和元年度に開催した「ふくしま鉄ものがたり」（令和２年２月１日から３月２９日）の展示を小中学生にも興味をもってもらえるように、展示遺物や展示解説の一部を替えてリニューアルを行った。展示遺物では、これまであまり公開することのなかった鉄滓や炉壁の裏側などを観察できるように努めた。

２）展示の構成と内容

これまでの研究のあゆみや製鉄炉の変遷について、８つのコーナーを設けて展示した。

①福島県製鉄遺跡研究のあゆみ

浜通り地方の古代・中世製鉄遺跡の調査年表や製鉄炉数・製鉄関連遺物量などの集計表、製鉄炉ごとの遺物量をランキングで示した「廃滓番付表」などを作成し、研究の現状を紹介した。

②一に粉鉄、二に木山、三に元釜土

江戸時代の『鉄山秘書』の一節を紹介しながら、製鉄遺構から出土した砂鉄・木炭・粘土などを展示した。

③箱形炉の変遷

７世紀中葉に浜通り地方に伝播した製鉄技術が、８世紀、さらに９世紀を通じてどのように

変容したか、その背景は何であったのかを鉄滓や炉壁などとともに紹介した。

④国指定史跡 横大道製鉄遺跡の構造

横大道製鉄遺跡については、製鉄炉ごとに技術が変容していった様子などを示した。また、遺構配置図などを展示し、現在でも遺構が良好に遺存している様子を紹介した。

⑤竪形炉の変遷

楢葉町南代遺跡の出土資料を中心に、８世紀中葉から９世紀前葉にかけて、通風管がどのように変化したかを展示した。

⑥箱形炉から円筒炉へ

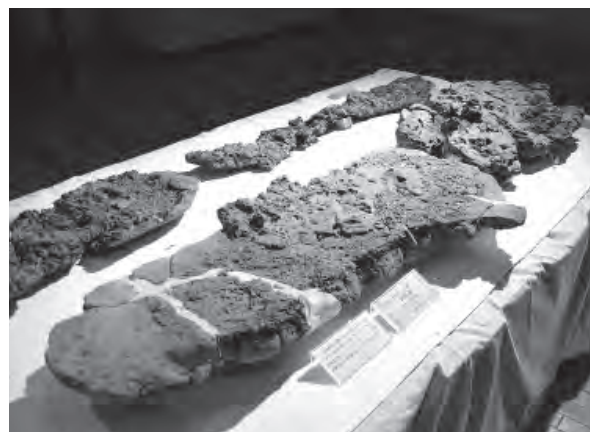
９世紀末葉から１０世紀に登場すると考えられている円筒形自立炉について、炉壁などの接合資料を中心に展示した。

⑦大型遺物コーナー

長さが１ｍを超えるような炉底滓や流出滓を一堂に並べて展示した。また羽口が装着された炉壁など炉形態や炉高、送風方法がわかる資料を展示した。

⑧製鉄遺跡の科学

成分分析などの金属学の成果をもとに、古代の製鉄技術の解明に向けた取り組みをパネルで展示した。



「ふくしま鉄ものがたりⅡ」

３）成果と反省

来館者からは、より詳しい解説パネルを求める意見があった。一方で製鉄関連遺物については土器や石器と違って初めて見た人が多く、一般にイメージしやすい工夫は必要であったと感じた。

４）関連展示

本企画展閉幕後、県内３会場において、まほ

ろん移動展「ふくしま鉄ものがたり」を開催した。

①福島県立図書館（福島市、会期：令和2年6月5日～7月1日）

②富岡町文化交流センター（双葉郡富岡町、会期：令和2年8月1日～8月30日）

③小高交流センター（南相馬市小高区、会期：令和2年9月1日～10月11日）

「ふくしま鉄ものがたりⅡ」展示資料一覧

市町村名	遺跡名	点数
新地町	向田E	2
新地町	向田G	1
新地町	洞山D	3
新地町	沢入B	2
新地町	大清水B	5
新地町	南狼沢A	9
新地町	鈴山	5
相馬市	猪倉A	3
相馬市	山田A	4
相馬市	鷲塚B	3
相馬市	大森	1
相馬市	北迫A	2
南相馬市	榎木沢B	2
南相馬市	割田C	2
南相馬市	割田H	4
南相馬市	大迫	1
南相馬市	谷地中	1
南相馬市	天化沢A	4
南相馬市	鳥井沢B	3
南相馬市	鳥打沢A	11
南相馬市	鳥打沢B	4
南相馬市	長瀬	16
南相馬市	大船迫 A	35
南相馬市	萩原	3
南相馬市	横大道製鉄	50
南相馬市	館越	8
南相馬市	大田和広畑	1
榎葉町	南代	8
その他	鉱物標本（個人蔵）	6
計 28遺跡		199

種別点数

種 別	点数
鉄器	2
鉄塊	16
鉄塊系遺物	2
羽口	34
木呂羽口切取資料	1
通風管	14
羽口付き炉壁	34
炉壁	32
木舞台座	1
砂鉄焼結塊	2
炉内滓	5
炉底滓	19
流出滓	15
砂鉄	14
鉄鉱石	3
木炭	2
粘土	2
木炭窯断面切取資料	1
計	199

（2）収蔵資料展

「ふくしま発掘最前線-十三遺跡記-」

会期:令和2年6月6日（土）～8月30日（日）
（開催日数75日間）

観覧者数:3,259名

1）趣旨

東日本大震災発生以後、令和元年までの間に福島県が発掘調査を実施した遺跡の中から13の遺跡群（鶴沼B遺跡については周辺遺跡も含めたため、遺跡数では17遺跡）をとりあげ、旧石器時代から江戸時代まで各時代の福島県の遺跡と発掘調査により判明した成果を紹介した。また、発掘調査が続く川俣町前田遺跡の出土資料を速報展示した。

2）展示の構成と内容

半時計回りの動線で、江戸時代から順に時代を遡るように展示を構成し、中央に速報展示である前田遺跡のコーナーを設けた。

①遺跡の調査とは（発掘調査と報告書の作成）

開発に伴う発掘調査の概要と、記録保存としての発掘調査報告書作成について解説した。

②向山遺跡（相馬藩領の製鉄場と墓）

江戸時代の遺跡として相馬藩西境付近に所在する相馬市向山遺跡をとりあげ、当時の製鉄の様子と操業に関わった集団のものと考えられる墓について紹介した。

③トロミ遺跡（阿武隈川河畔の武士の館跡）

鎌倉時代の遺跡として、阿武隈川右岸の自然堤防上に立地する二本松市トロミ遺跡の中世の館跡と出土資料を紹介した。

④鶴沼B遺跡と周辺遺跡群（会津盆地の古代集落と祭祀）

平安時代の遺跡群として、会津盆地の沖積地に展開する会津若松市鶴沼B遺跡を中心とする遺跡群を取り上げ、会津郡衙近くの集落の姿とそこで行われた祭祀について紹介した。

⑤南代遺跡（古代製鉄と炉終いの作法）

奈良時代の製鉄関連遺跡として、榎葉町南代遺跡を取り上げ、古代製鉄とそこで行われたと考えられる炉終いの祭祀に関連する資料を紹介した。

⑥桶師屋遺跡（真野の萱原の豪族居館？）

古墳時代中期の遺跡として、真野川河口近くの微高地上に立地する南相馬市桶師屋遺跡を取

り上げ、周濠や出土資料から、豪族居館である可能性を考えた。

⑦五畝田・犬這遺跡（浜辺の集落とガラス玉）
古墳時代前期の遺跡として、太平洋に臨む微高地上に立地する南相馬市五畝田・犬這遺跡を取り上げた。一般の集落から出土したガラス玉を紹介した。

「ふくしま発掘最前線」展示資料一覧

遺跡名	資料名	点数	所蔵
向山遺跡	羽口	3	福島県教育委員会
向山遺跡	鉄滓	3	福島県教育委員会
向山遺跡	灰釉陶器腰折碗	1	福島県教育委員会
向山遺跡	瓦質土器（短頸壺）	1	福島県教育委員会
向山遺跡	尾呂茶碗模倣丸碗	1	福島県教育委員会
向山遺跡	寛永通宝	6	福島県教育委員会
向山遺跡	寛永通宝文銭	3	福島県教育委員会
向山遺跡	和鉄	1	福島県教育委員会
向山遺跡	煙管	1	福島県教育委員会
向山遺跡	銅鏡（蓬萊文鏡）	1	福島県教育委員会
向山遺跡	火箸	1	福島県教育委員会
トロミ遺跡	白磁碗	1	福島県教育委員会
トロミ遺跡	青磁蓮弁文碗	4	福島県教育委員会
トロミ遺跡	靱尻金具	1	福島県教育委員会
トロミ遺跡	火打金	1	福島県教育委員会
トロミ遺跡	飾り金具	1	福島県教育委員会
トロミ遺跡	聖元元寶	1	福島県教育委員会
トロミ遺跡	元豊通宝	1	福島県教育委員会
トロミ遺跡	元祐通寶	1	福島県教育委員会
トロミ遺跡	かわらけ	35	福島県教育委員会
西木流D遺跡	須恵器環（墨書「福依」）	1	福島県教育委員会
鶴沼B遺跡	土師器環（人面墨書土器）	1	福島県教育委員会
西木流C遺跡	須恵器横瓶（刻書「梓今来」）	1	福島県教育委員会
鶴沼B遺跡	土師器環（墨書「財」）	1	福島県教育委員会
鶴沼C遺跡	須恵器環（墨書「吉集」）	1	福島県教育委員会
西坂才遺跡	土師器脚付鉢	1	福島県教育委員会
西坂才遺跡	須恵器有刻文凹面硯	1	福島県教育委員会
西木流C遺跡	舟形木製品	1	福島県教育委員会
鶴沼B遺跡	スコップ形木製品	1	福島県教育委員会
西木流C遺跡	斎串	1	福島県教育委員会
西木流C遺跡	竪柱	1	福島県教育委員会
西木流C遺跡	木製紡織具	2	福島県教育委員会
西木流C遺跡	コロパン	1	福島県教育委員会
鶴沼C遺跡	ひょうたん容器	1	福島県教育委員会
西木流C遺跡	挽物椀	1	福島県教育委員会
鶴沼C遺跡	挽物椀（刻書「今」）	1	福島県教育委員会
鶴沼C遺跡	建物扉枠板（井戸側転用材）	2	福島県教育委員会
鶴沼C遺跡	建物扉材（井戸側転用材）	2	福島県教育委員会
南代遺跡	鉄刀	1	福島県教育委員会
南代遺跡	羽口	1	福島県教育委員会
南代遺跡	鉄滓	1	福島県教育委員会
南代遺跡	通風管	3	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	剣形石製模造品	5	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	勾玉形石製模造品	2	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	鏡形石製模造品	5	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	石製管玉	1	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	石製小玉	2	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	鍔形石製模造品	1	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	椀形滓	1	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	土師器高坏	1	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	土師器鉢	1	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	土師器壺（a）	1	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	土師器甕（b）	1	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	土師器甕（c）	1	福島県教育委員会
桶師屋遺跡	土師器甕（d）	1	福島県教育委員会
五畝田・犬這遺跡	土師器鉢	6	福島県教育委員会
五畝田・犬這遺跡	土製丸玉	4	福島県教育委員会

⑧高木遺跡（邪馬台国の彼方のムラ）

弥生時代後期の遺跡として、阿武隈川左岸の自然堤防上に立地する、須賀川市高木遺跡を取り上げた。県内では数少ない弥生時代後期の集落跡と墓跡を紹介した。

⑨天化沢遺跡（丘の上の石器製作）

弥生時代中期の遺跡として、太平洋側の丘陵

遺跡名	資料名	点数	所蔵
五畝田・犬這遺跡	石製管玉	1	福島県教育委員会
五畝田・犬這遺跡	ガラス小玉	2	福島県教育委員会
五畝田・犬這遺跡	土師器甕	2	福島県教育委員会
五畝田・犬這遺跡	土師器小型甕	2	福島県教育委員会
高木遺跡	弥生土器広口壺	4	福島県教育委員会
高木遺跡	弥生土器蓋（東北系）	1	福島県教育委員会
高木遺跡	土製紡錘車	1	福島県教育委員会
高木遺跡	アメリカ式石鏃	1	福島県教育委員会
高木遺跡	弥生土器壺	1	福島県教育委員会
天化沢遺跡	石包丁	4	福島県教育委員会
天化沢遺跡	ノミ形石斧	3	福島県教育委員会
天化沢遺跡	扁平片刃石斧	2	福島県教育委員会
天化沢遺跡	太型蛤刃石斧	1	福島県教育委員会
天化沢遺跡	弥生土器甕	1	福島県立博物館
植松C遺跡	縄文土器浅鉢	2	福島県教育委員会
植松C遺跡	土偶	2	いわき市教育委員会
植松C遺跡	縄文土器深鉢	3	福島県教育委員会
植松C遺跡	動物遺体	7	福島県教育委員会
新田遺跡	漆の付着した縄文土器	1	白河市教育委員会
新田遺跡	縄文土器深鉢	2	福島県教育委員会
新田遺跡	土偶	2	福島県教育委員会
新田遺跡	石皿	1	福島県教育委員会
新田遺跡	磨石	1	福島県教育委員会
新田遺跡	磨製石斧	2	福島県教育委員会
新田遺跡	へう状石器	1	福島県教育委員会
新田遺跡	石鏃	6	福島県教育委員会
新田遺跡	石匙	5	福島県教育委員会
新田遺跡	有溝砥石	1	福島県教育委員会
赤柴遺跡	細石刃	1	福島県教育委員会
赤柴遺跡	細石刃核	3	福島県教育委員会
赤柴遺跡	スキー状スボール	1	福島県教育委員会
赤柴遺跡	彫器	2	福島県教育委員会
赤柴遺跡	搔器	2	福島県教育委員会
赤柴遺跡	尖頭器	1	福島県教育委員会
赤柴遺跡	石刃	2	福島県教育委員会
赤柴遺跡	接合資料	2	福島県教育委員会
赤柴遺跡	被熱礫	4	福島県教育委員会
赤柴遺跡	台石	1	福島県教育委員会
大谷上ノ原遺跡	槍先型尖頭器	5	福島県教育委員会
大谷上ノ原遺跡	ナイフ形石器	14	福島県教育委員会
大谷上ノ原遺跡	角錐状石器	1	福島県教育委員会
大谷上ノ原遺跡	台形様石器	1	福島県教育委員会
大谷上ノ原遺跡	搔・彫器	1	福島県教育委員会
大谷上ノ原遺跡	搔器	1	福島県教育委員会
大谷上ノ原遺跡	彫器	1	福島県教育委員会
大谷上ノ原遺跡	刃部磨製石斧	2	福島県教育委員会
大谷上ノ原遺跡	細石刃核	1	福島県教育委員会
前田遺跡	火鑽白	1	福島県教育委員会
前田遺跡	漆塗丸木弓（7/22まで）	1	福島県教育委員会
前田遺跡	木製斧柄（7/22まで）	1	福島県教育委員会
前田遺跡	木胎漆器浅鉢（7/22まで）	1	福島県教育委員会
前田遺跡	編組製品断片（7/22まで）	3	福島県教育委員会
前田遺跡	漆塗丸木弓（7/23から）	1	福島県教育委員会
前田遺跡	木製斧柄（7/23から）	1	福島県教育委員会
前田遺跡	木胎漆器把手付鉢（7/23から）	1	福島県教育委員会
前田遺跡	編組製品（7/23から）	1	福島県教育委員会

地に立地する南相馬市天化沢遺跡を取り上げた。丘陵中腹のムラで営まれた石器製作の資料を紹介した。

⑩植松C遺跡（ゴミ捨て場からわかること）

縄文時代中期の遺跡として、南相馬市植松C遺跡を取りあげた。集落の存在が推定される段丘から続く斜面に廃棄されたおびただしい土器や動物の骨などから、縄文時代の食について紹介した。

⑪新田遺跡（ロングハウスがある集落）

縄文時代前期の遺跡として、丘陵地上の新地町新田遺跡を取り上げた。ロングハウスと呼ばれる平面形が細長い竪穴住居跡で構成された集落跡を紹介した。

⑫赤柴遺跡（野営地の調理事情）

後期旧石器時代の遺跡として新地町赤柴遺跡を取り上げ、旧石器時代の調理に係る遺構や石器製作の場を紹介した。

⑬大谷上ノ原遺跡（石器群のうつりかわり）

檜葉町大谷上ノ原遺跡を取り上げ、後期旧石器時代の石器群の移り変わりを解説した。

⑭前田遺跡（ふくしま発掘最前線）

調査継続中の川俣町前田遺跡の出土木製品を展示するとともに、福島県文化振興財団が令和元年度に発掘調査した遺跡のパネル展示を行った。



「ふくしま発掘最前線」

3) 成果と反省

新型コロナウイルス感染症対策による休館開け初となる企画展示である。準備期間が、1回目の緊急事態宣言下であったため、思うように作業がすすまなかったが、なんとか開幕に間に合わせた。展示解説は、古めかしいイメージの

文体で統一したものを資料の手前に設置した。壁面パネルには、写真及び推定復元図を配置し、文字による解説はできる限り避けた。

関連講演会については、予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。

新型コロナウイルス感染症の影響で、例年よりも観覧者は少なかったものの、福島県の発掘調査速報展の意味合いから、県内外から広く来館者を得た。前田遺跡出土資料を展示したことから、中通り北部からの来館者が多かった。

（3）ふくしま歴史探訪展

「ようこそ！古墳時代へー阿武隈川流域に暮らした人々ー」

会期：令和2年9月26日（土）～12月13日（日）
（開催日数68日間）

観覧者数：3,191名

1) 趣旨

現代の生活にもつながる生活・祈り・死をテーマとして、それぞれのテーマに関わる古墳時代の特徴的な遺物を、中通り地方の遺跡から出土した収蔵資料を中心に展示した。

小学6年生前後の子どもがわかりやすいように解説パネルを作成し、古墳時代の人たちの様子を説明した。

2) 展示の構成と内容

①古墳のつくられた頃って？

導入として、古墳時代には大きな墓が多くつくられていたが、墓以外にも暮らしにかかわる多くのものがあり、現代まで残っていることを説明した。また、古墳時代に使われた土師器と須恵器の2種類の土器を展示した。

②どんなくらしか見てみよう！

「おうちのなかへどうぞ」、「なにを食べようかな？」、「おしゃれしてみない？」という3つの小テーマを設定した。

「おうちのなかへどうぞ」では、玉川村江平遺跡の53号住居跡の土師器を展示した。53号住居跡では、カマド周辺から多量の土師器が折り重なって出土していたことから、棚の様な施設があったと想定し、カマドと棚を復元して、家の中の様子がイメージできるようにした。

「なにを食べようかな？」では、古墳時代の

食べ物に関わるものを展示した。食事に使われた土師器の中に、古墳時代に食べられていたことがわかっている米、粟などの食べ物をよそって展示したほか、カマドの中から見つかった猪の骨、イネの圧痕が残った粘土塊を展示した。

「おしゃれしてみない？」では、古墳時代の服飾に関わるものを展示した。糸をつむぐ際に使われた紡錘車を展示したほか、埴輪の表現を参考に当時の衣装を再現し、埴輪に着せたパネルを設置した。

③おねがいごととはなにあに？

くらしの中で行われた祭祀に関わると考えられる遺物を展示した。水辺の祭祀に関わると考えられる本宮市高木遺跡の溝跡出土土器の出土状況を再現したほか、郡山市正直A遺跡出土の石製模造品などを展示した。

④入口をはいるとそこは…

古墳や横穴墓などの墓から見つかった遺物をテーマとした。収蔵品としては、横穴墓から見つかった須恵器や鉄刀・勾玉などのアクセサリを中心に展示したが、金属製品については、当時の様子がわかりやすいように、復元品が中心となった。会期途中からは矢吹町弘法山古墳

群から出土した実物の鉄刀も展示した。また、部屋の中央に設置した展示ケースには、中島村四穂田古墳出土の短甲の復元品、泉崎村原山1号墳出土力士埴輪のレプリカを展示した。

⑤みんなも古墳さがしてみない？

中通り地方で見ついている主要古墳を地図と写真で示した。また、中通り地方で見ついている古墳を、その規模でランキング付けして紹介したほか、県内で見ついている古墳や横穴墓の数の概数を示した。

3) 成果と反省

小学生を主要な対象とした解説を意識したことで、「わかりやすい」という声が多かった。古墳や横穴墓の出土品に関しては、復元品・レプリカが中心となってしまったため、実物が見たかったという声も寄せられていて、実物を多く選定できなかったことは改善点として挙げられる。

小学生向けの企画として準備したが、会期中は新型コロナウイルス感染症流行のため、小学生の団体見学が限られてしまい、ターゲットとした年齢層の見学者が想定よりも少なくなった。

「ようこそ！古墳時代へ」展示資料一覧

遺跡名	資料名	点数	所蔵
下入ノ内遺跡	須恵器（杯）	1	福島県教育委員会
下入ノ内遺跡	須恵器（把手付碗）	1	福島県教育委員会
下入ノ内遺跡	石製模造品	3	福島県教育委員会
笹内古墳群	須恵器 提瓶	1	福島県教育委員会
笹内古墳群	須恵器 高坏	1	福島県教育委員会
笹内古墳群	須恵器 壺	1	福島県教育委員会
笹内古墳群	須恵器 坏	3	福島県教育委員会
笹内古墳群	勾玉	3	福島県教育委員会
笹内古墳群	ガラス玉	—	福島県教育委員会
笹内古墳群	銅釦（復元品）	1	福島県教育委員会
笹内古墳群	耳環（復元品）	2	福島県教育委員会
笹内古墳群	銅碗（復元品）	1	福島県教育委員会
笹内古墳群	直刀（復元品）	3	福島県教育委員会
白山C遺跡	須恵器 高坏	1	福島県教育委員会
大池下遺跡	土師器 壺	1	福島県教育委員会
正直A遺跡	土師器 壺	1	福島県教育委員会
正直A遺跡	土師器 高坏	1	福島県教育委員会
正直A遺跡	土師器 坏	5	福島県教育委員会
正直A遺跡	石製模造品 剣形	6	福島県教育委員会
正直A遺跡	石製模造品 斧形	1	福島県教育委員会
正直A遺跡	石製模造品 円板	5	福島県教育委員会
正直A遺跡	石製模造品 勾玉	8	福島県教育委員会
正直A遺跡	石製模造品 白玉	—	福島県教育委員会
正直A遺跡	石製模造品 未製品	12	福島県教育委員会
正直A遺跡	砥石	4	福島県教育委員会
正直A遺跡	石製紡錘車	7	福島県教育委員会
治部池横穴	須恵器 長頸壺	1	福島県教育委員会
江平遺跡	土師器 坏	40	福島県教育委員会
江平遺跡	土師器 甕	11	福島県教育委員会

遺跡名	資料名	点数	所蔵
江平遺跡	土師器 壺	1	福島県教育委員会
江平遺跡	土師器 甕	1	福島県教育委員会
高木遺跡（須賀川市）	粘土塊	1	福島県教育委員会
高木遺跡（須賀川市）	土師器 高坏	1	福島県教育委員会
高木遺跡（須賀川市）	土師器 鉢	3	福島県教育委員会
高木遺跡（須賀川市）	土師器 壺	4	福島県教育委員会
山王川原遺跡	獣骨	1	福島県教育委員会
高木遺跡（本宮市）	土師器 坏	5	福島県教育委員会
高木遺跡（本宮市）	土師器 高坏	1	福島県教育委員会
高木遺跡（本宮市）	土師器 甕	4	福島県教育委員会
高木遺跡（本宮市）	土師器 甕	1	福島県教育委員会
高木遺跡（本宮市）	土師器 壺	1	福島県教育委員会
高木遺跡（本宮市）	土師器 ミニチュア土器	6	福島県教育委員会
高木遺跡（本宮市）	土製勾玉	2	福島県教育委員会
トロミ遺跡	土師器 坏	4	福島県教育委員会
トロミ遺跡	土師器 甕	6	福島県教育委員会
トロミ遺跡	土師器 鉢	2	福島県教育委員会
トロミ遺跡	土師器 甕	1	福島県教育委員会
早稲田古墳群	土師器 坏	17	福島県教育委員会
弘法山古墳群	直刀	1	福島県教育委員会
弘法山古墳群	玉類	—	福島県教育委員会
弘法山古墳群	円頭金具（復元品）	1	福島県教育委員会
中田横穴	円頭金具（復元品）	1	福島県教育委員会
郭内横穴	円頭金具（復元品）	1	福島県教育委員会
郭内横穴	鏝（復元品）	1	福島県教育委員会
跡見塚古墳	鏝（復元品）	1	福島県教育委員会
真野古墳群	双魚佩（復元品）	1	福島県教育委員会
四穂田古墳	短甲（復元品）	1	中島村教育委員会
原山1号墳	力士埴輪（レプリカ）	1	福島県教育委員会



「ようこそ！古墳時代へ」

（４）指定文化財展

「法正尻遺跡展1―磐梯山麓最大の縄文集落―」

会期：令和3年1月23日（土）～3月28日（日）

（開催日数56日間）

観覧者数：2,396名

1）趣旨

当館の開館20周年を記念し、855点が国の重要文化財に指定されている法正尻遺跡出土品を3回に分けて展示する企画の第1回。

縄文時代前期末葉から中期中葉までの調査成果と出土品を公開し、磐梯山麓最大の縄文集落である法正尻遺跡の変遷と特質を明らかにした。



「法正尻遺跡展1」ポスター

2）展示の構成と内容

①法正尻遺跡とは

遺跡の位置、周辺の自然環境、発掘調査中から現在の法正尻遺跡の姿を、地図・写真等により紹介した。

②法正尻ムラの変遷

縄文時代前期末葉から中期中葉にかけての遺構群の変遷を、遺構配置図と鳥瞰想像図で示し、各時期の出土品を、古いものから年代順に展示した。また、縄文時代中期前葉～中葉のフラスコ状土坑内における土器群を、出土状況の写真や実物大土層断面図を併用しながらわかりやすく展示した。

③移動と交流

東北地方南部の在地的土器、北陸東部に由来する火炎系土器、そしてその2つの特徴を合わせもつ折衷型土器を展示し、地域間交流を示した。

④くらしの道具

狩猟、漁労、食料加工に関わる石器・石製品類を、復元品と並列させて展示した。

⑤祈りの表象

三角柱状土製品や土偶など、祭祀で使われたと考えられる出土品を展示した。

⑥オプションルコーナー

【縄文ドキッと総選挙】

お気に入りの土器を選ぶ投票コーナー。土器を印刷したパネルに観覧者がシールを貼る方法で投票。また、期間限定で、公式Instagramで閲覧者にいいね！ボタンを押す方法で投票してもらった。



「法正尻遺跡展1」

3) 成果と反省

例年来館者が少ない傾向にある冬季間で、さらにコロナ禍ではあったが、国指定重要文化財を公開する企画ということもあり、本展を目的に来館した方が多く見受けられた。

展示パネル等の工夫により「わかりやすい」という感想や「福島県にもこのような素晴らしい

い遺跡があることを知らなかった」という感想をもらうことができた。本展を通して文化財の魅力を伝えることができた。

一方、解説資料や解説パネルの文字が小さいとの指摘が多かったことが反省点となった。

今後は、年配の方でも読みやすくわかりやすいものを作成することを心掛けたい。

「法正尻遺跡展1」展示資料一覧

法正尻ムラのすがた							
資料名	器種	時期	点数	資料名	器種	時期	点数
遺構外出土土器	深鉢	大木6式期	1	52号土坑出土土器	深鉢	大木7b～8a式期	1
	深鉢	大木6式期	3	474号土坑出土土器	深鉢	大木7b～8a式期	2
54号住居跡出土土器	深鉢	大木7a式期	2	遺構外出土土器	鉢	大木7b～8a式期	1
723号土坑出土土器	深鉢	大木7a式期	1		鉢	大木7b～8a式期	2
761号土坑出土土器	台付鉢	大木7a式期	1	1号住居跡出土土器	台付鉢	大木8a式期	1
遺構外出土土器	深鉢	大木7a式期	1		注口付鉢	大木8a式期	1
21号住居跡出土土器	深鉢	大木7b式期	2	49号住居跡出土土器	深鉢	大木8a式期	1
53号住居跡出土土器	深鉢	大木7b式期	1	102号土坑出土土器	浅鉢	大木8a式期	1
74号土坑出土土器	小型鉢	縄文時代中期	1	326号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	4
415号土坑出土土器	深鉢	大木7b式期	9	339号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	2
	浅鉢	大木7b式期	1	365号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	6
遺構外出土土器	人面把手	大木7b式期	1	378号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	2
32号土坑出土土器	深鉢	大木7b式期?	1	420号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	2
25号土坑出土土器	深鉢	大木7b～8a式期	1	429号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	6
52号土坑出土土器	深鉢	縄文時代中期	1	577号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期	1
土器から見る移動と交流							
資料名	器種	時期	点数	資料名	器種	時期	点数
333号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期(火炎系)	1	345号土坑出土土器	深鉢	大木8b式期	1
404号土坑出土土器	深鉢	大木8a式期(大木・火炎系折衷)	1				
くらしの道具							
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数		
石鏃	大木7a・b式期	2	石匙(横型)	大木9・10式期	1		
石鏃	大木7a・b式期	1	石匙(縦型)	大木9・10式期	5		
石匙(松原型)	大木7a・b式期	1	搔器	大木9・10式期	3		
石匙(横型)	大木7a・b式期	1	円形搔器	大木9・10式期	2		
石匙(縦型)	大木7a・b式期	5	磨製石斧	大木9・10式期	2		
石篋	大木7a・b式期	2	石核	大木9・10式期	3		
搔器	大木7a・b式期	3	磨製石斧	時期不明	4		
削器	大木7a・b式期	1	打製石斧	時期不明	2		
円形搔器	大木7a・b式期	2	磨石類	大木6・7a式期	8		
礫器	大木7a・b式期	1	磨石類	大木7b式期	6		
磨製石斧	大木7a・b式期	1	磨石類	大木8a式期	9		
石核(黒曜岩)	大木7a・b式期	2	磨石類	大木8b式期	8		
石核	大木7a・b式期	3	磨石類	大木9式期	5		
石鏃	大木8a式期	3	磨石類	大木10式期	8		
石鏃	大木8a式期	2	軽石石製品	時期不明	1		
石匙(横型)	大木8a式期	1	ハンマーストーン	時期不明	1		
石匙(縦型)	大木8a式期	4	石皿	大木8b式期	1		
石篋	大木8a式期	1	石皿	大木9式期	2		
搔器	大木8a式期	4	石皿	大木10式期	1		
円形搔器	大木8a式期	1	石皿	時期不明	2		
石核	大木8a式期	4	有溝砥石	時期不明	3		
石鏃	大木8b式期	1	石錘	大木8b式期	3		
礫器	大木8b式期	2	石錘	大木9式期	2		
磨製石斧	大木8b式期	2	石錘	大木10式期	4		
石核	大木8b式期	1	土器片製円盤	中期	24		
石鏃	大木9・10式期	2	耳飾	中期	4		
石鏃	大木9・10式期	1					
祈りの表象							
資料名	時期	点数	資料名	時期	点数		
三角柱形石製品	中期中葉	1	三角形石製品	中期中葉	7		
土偶	中期中葉	3	岩偶	中期中葉	1		
石棒	中期	1	三脚石器	中期中葉	3		
			異形石器	中期	1		
合計 248点							

3. 講演会等

(1) 館長講演会

令和2年度は、館長講演会を計3回開催した。当初は5回を計画したが、第1・2回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、配布資料はホームページ上で公開した。なお、第3・4回は、「民族共生象徴空間ウポポイ開設に寄せて」のシリーズ企画とし、アイヌ文化に焦点を当てた講演を行った。



第4回館長講演会

(2) 文化財講演会等

企画展と関連したテーマの文化財講演会・セミナー・ビデオ上映会を計11回開催した。当初計画した講演会「ふくしま発掘最前線」とシンポジウム「鉄の道をたどる」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、講演会は配布資料をホームページ上で公開、シンポジウムは予稿集をホームページ上で公開すると共に関係機関に配布した。

1) 文化財講演会

①阿武隈川流域の古墳時代

企画展「ようこそ！古墳時代へー阿武隈川流域に暮らした人々ー」の関連講演会で、福島大学行政政策学類の菊地芳朗氏を講師に迎えた。主に中通り中～南部の古墳時代の遺跡動向から、前期～終末期に一貫して繁栄を続ける地域は認められず、時期により最有力地域・古墳群が変転することを解説した。

②福島県における石製模造品の様相ー建鉾山祭祀遺跡出土遺物を中心にー

企画展「ようこそ！古墳時代へー阿武隈川流域に暮らした人々ー」の関連講演会で、郡山市

講演会等実施状況

館長講演会	演 題		実施日	受講者数	
	第1回「自然災害としての新型コロナー歴史のなかの感染症ー」		中止 資料web配信	ー	
	第2回「シンポジウム鉄の道をたどるに寄せて」		中止 資料web配信	ー	
	第3回「先住民族アイヌの現在と歴史遡上の試みーアイヌ新法から日本書紀までー」		令2.9.12	16名	
	第4回「北日本の人類史の流れを下るー考古学からアイヌ文化の形成を探るー」		令2.12.19	14名	
	第5回「コロナ時代の考古学ニュースを解説する」		令3.2.28	18名	
文化財講演会等	演 題		講 師	実施日	受講者数
	講演会「ふくしま発掘最前線」		吉田秀享（福島県文化振興財団遺跡調査部）	中止 資料web配信	ー
	シンポジウム「鉄の道をたどる」		能登谷宣康（福島県文化振興財団遺跡調査部） 板谷 宏（日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム顧問） 下山貴生（宮城県多賀城跡調査研究所） 笹澤泰史（群馬県地域創生部文化財保護課） 高崎直成（ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館） 大道和人（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課）	予稿集を刊 行・web配信	ー
	講演会「阿武隈川流域の古墳時代」		菊地芳朗（福島大学行政政策学類）	令2.9.27	16名
	講演会「福島県における石製模造品の様相」		佐久間正明（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）	令2.11.21	17名
	講演会「大木開貝塚と大木式土器」		田村正樹（宮城県七ヶ浜町教育委員会）	令3.1.24	16名
	まぼろ「相馬中村藩の製塩遺跡とソルトロード」 ん講演「古代製鉄炉復元操業実験の成果と課題」 会「中世のムラー北と南からー」		佐々木慎一（白河館） 吉田秀享（福島県文化振興財団遺跡調査部） 飯村 均（福島県文化センター）	令3.3.14	24名
	セミナー「法正厩遺跡の集落構成」		松本 茂（福島県文化振興財団遺跡調査部） 本間 宏（白河館）	令3.2.27	23名
	ビデオ上映会	演 題		実施日	受講者数
上映会「講演会録画 阿武隈川流域の古墳時代」		令2.10.6	10名		
上映会「講演会録画 福島県における石製模造品の様相」		令2.11.28	5名		
上映会「講演会録画 大木開貝塚と大木式土器」		令3.1.28	13名		
上映会「第4回館長講演会録画」「第5回館長講演会録画」		令3.3.6	6名		
上映会「講演会録画 相馬中村藩の製塩遺跡とソルトロード」「講演会録画 古代製鉄炉復元操業実験の成果と課題」 「講演会録画 中世のムラー北と南からー」		令3.3.20	4名		
上映会「文化財セミナー録画 法正厩遺跡の集落構成」		令3.3.27	19名		

文化・学び振興公社の佐久間正明氏を講師に迎えた。講演では、全国的視野で白河市建鉾山祭祀遺跡出土の石製模造品の重要性を解説するとともに、他地域のつながりは、群馬県→栃木県→茨城県と変化し、関連する首長層の階層は相対的に低下するなど、5世紀を通して一貫した様相ではないことを明らかにした。

③大木囲貝塚と大木式土器

企画展「法正厩遺跡展1―磐梯山麓最大の縄文集落―」の関連講演会で、宮城県七ヶ浜町教育委員会の田村正樹氏を講師に迎えた。考古学に果たした大木囲貝塚の研究史上の位置、とりわけ重要な山内清男と興野義一の業績、大木式土器の特徴について解説した。

④まほろん文化財講演会

令和2年度の財団退職者による3部構成の講演を行った。内容は、白河館佐々木慎一による「相馬中村藩の製塩遺跡とソルトロード」、福島県文化振興財団遺跡調査部の吉田秀亨氏による「古代製鉄炉復元操業実験の成果と課題」、福島県文化センターの飯村均氏による「中世のムラ―北と南から―」。



文化財講演会「阿武隈川流域の古墳時代」

2) セミナー

企画展「法正厩遺跡展1―磐梯山麓最大の縄文集落―」の関連セミナーとして、「法正厩遺跡の集落構成」を開催した。第1部では調査担当者である福島県文化振興財団遺跡調査部の松本茂氏が集落構成と変遷や貯蔵穴群の特徴などについて概要を解説、第2部では白河館本間宏が竪穴住居群と貯蔵穴群の一貫した棲み分けなどについて言及し、第3部では参加者のコメントを交え、討論を行った。



セミナー「法正厩遺跡の集落構成」

3) ビデオ上映会

感染症対策として講演会入場定員を少数に制限したことから、これを補うため講演会等録画の上映会を計6回開催した。

4. 体験学習・イベント

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、とりわけ体験学習に関わる事業では変更を余儀なくされ、試行錯誤を繰り返しながらの運用となった。

それぞれの体験活動では、職員や参加者どうしの接触や近距離での活動の機会が生じやすいことから、新生活様式下での基本的な感染症対策とともに、原則非接触での対応に努めた。具体的には、少人数（同居家族）での対応、動線を含めた職員、参加者の活動範囲の設定、道具の受け渡しや共有を控えるなどである。

(1) いつでもできる体験学習

1) 個人利用者対象メニュー

常設の体験スペースである体験活動室を中心に、個人の来館者を対象に実施しているメニューである。（平成30年度までの「体験活動室メニュー」）例年どおり、通年で実施している「勾玉づくり」「管玉づくり」「火おこしに挑戦」、季節ごとの「まほろんクイズラリー」、月ごとの1～3種類のメニューを計画していたが、感染症拡大防止のための休館明け以降、対策を講じながら段階的に実施していった。

「勾玉づくり」と「火おこしに挑戦」は、7月以降、どちらも会場を体験広場南口のテラスとし、曜日替わりで実施した。「勾玉づくり」は各回2組（1組最大2名）までの時間制とし、

「管玉づくり」は休止した。「火おこしに挑戦」は1名ずつの完全入替制とした。



「勾玉づくり」

「まほろんクイズラリー」は、展示に係る問題を解きながら屋内外を巡るメニューで、お盆明けの8月18日から9月までと、3か月ごとの秋冬の3回に内容を変えて実施した。

月ごとに変わるメニューは、企画展や季節の行事に関連させるなどしたものである。1組(最大2名)ずつの対応として、6月から有料のメニューを実施した。プロムナードで予定していた無料メニューは中止し、代替として過年度のイベント等で実施したメニューを持ち帰り用キットとして提供した。



「凧づくり」

体験メニューの休止期間には、屋外の体験広場に、土偶を模した白河館職員制作の土製品数点を各所に置き、配置図を見ながらそれらの土偶探しを行った。

小中学生の夏休み期間中は、感染症対策の制限があったものの、墨流しをアレンジした「マーブリング団扇づくり」や展示資料を取り上げた

「石器風アクセサリづくり」が好評であった。また、企画展『ようこそ！古墳時代へ』の関連として、泉崎村原山1号墳出土の力士埴輪と矢吹町鬼穴古墳出土の家形埴輪のミニはにわ赤彩体験を行った。

個人利用者対象メニューの内容と体験者数は別表のとおりである。

個人利用者対象メニュー実施状況

実施期間	内容(体験料)	参加人数
6/6～6/30	砂鉄で作る蒔絵風街バッジ(100円)	44名
7/1～7/31	マーブリング団扇づくり(100円)	147名
	七夕短冊づくり(無料) ※7/2～7/7実施	
8/1～8/30	石器風アクセサリづくり(100円)	307名
9/1～9/30	組紐でストラップづくり(110円)	82名
10/1～11/1	ミニはにわ赤彩体験<力士>(100円)	78名
11/1～11/29	ミニはにわ赤彩体験<家型はにわ>(200円)	62名
12/1～12/27	たがりすづくり(200円)	84名
1/5～1/31	凧づくり(150円)	61名
2/2～2/28	縄文マグネットづくり(100円)	78名
3/2～3/31	市松編みコースターづくり(100円)	83名
季節実施メニュー	まほろんクイズラリー(夏)8/18～・9月(無料)	146名
	まほろんクイズラリー(秋)10・11・12月(無料)	322名
	まほろんクイズラリー(冬)1・2・3月(無料)	146名
通年実施メニュー	勾玉づくり(有料)	137名
	火おこしに挑戦(無料)	175名
合計		1,952名

2) 団体利用者対象メニュー

事前予約の必要な団体利用者向けの体験メニューは、十分な感染症対策が取れないことから展示見学のための受け入れとなった。

3) 特別体験メニュー

感染症対策を優先し、令和2年度は小・中学校の夏休み期間にのみ『夏休み特別体験』を小規模開催として実施した。

『夏休み特別体験』では、福島県ゆかりの8つの妖怪話の動画を上映し、ミニ展示「妖怪と遺跡の奇妙なリンク」で妖怪と関連付けた遺跡や考古資料を紹介した。また、シールラリー「ふくしまの妖怪をさがせ！」では、館内外に置かれた8つの妖怪土人形を探してもらった。シールラリーは、記念品の特製妖怪缶バッチが人気で、連日来館される親子連れもあった。



夏休み特別体験 ミニ展示「妖怪と遺跡の奇妙なリンク」

特別体験メニュー実施状況

特別体験・イベント名	内容(体験料)	参加人数
まほろん 夏休み特別体験	シールラリー「ふくしまの妖怪をさがせ!」 (無料)	564名
	「ふくしまの妖怪話」上映(無料)	920名
	ミニ展示「妖怪と遺跡の奇妙なリンク」(無料)	920名
まほろん 感謝月間	移動水族館(アクアラバン)	937名
	まほろん秋のクイズラリー(無料)	202名
合計		3,543名

(2) 募集型体験学習

1) 実技講座

考古資料や福島県内を中心とした伝統文化に関連した「モノづくり」を通して、原始・古代の技術を追体験することを目的とした、事前申込制の個人向けの体験講座である。令和2年度は、6講座(全16回)を実施した。



実技講座「大堀相馬焼に挑戦」

感染症の拡大により、上半期予定していた講座を延期して10月以降の開催となった。また、職員による体験補助を制限したことから、講座全体を通して大人の方の参加が多かった。

講座の内容としては、当館収蔵の考古資料を活用した土器づくりのほか、企画展関連講座の「おすもうさん埴輪づくり」、古代のガラス技術の操業実験を行った「ガラスはどうしたらできるのか」など独自色を出した。また、「大堀相馬焼に挑戦」では外部講師を招聘し、本格志向の体験を目指した。

実技講座実施状況

講座名	実施日	参加人数
おすもうさん埴輪づくり	令2.10.4	4名
大堀相馬焼に挑戦①印花づくり	令2.10.18	12名
大堀相馬焼に挑戦②皿づくり	令2.11.1	12名
土器づくり初級編Ⅰ	令2.11.6	0名
土器づくり初級編Ⅱ	令2.11.7	5名
大堀相馬焼に挑戦③絵付け	令2.11.8	10名
ガラスはどうしたらできるのか①埴塀づくり	令2.11.29	4名
ガラスはどうしたらできるのか②操業実験	令2.12.6	5名
土器づくり上級編①成形	令3.1.16	7名
土器づくり上級編②成形・施文	令3.1.17	7名
土器づくり上級編③ミガキ調整	令3.1.19～21	16名
アンギン台での布づくり①	令3.1.26	3名
アンギン台での布づくり②	令3.1.27	3名
アンギン台での布づくり③	令3.1.28	2名
アンギン台での布づくり④	令3.1.29	3名
土器づくり上級編④野焼き	令3.3.7	7名
合計		100名

2) まほろんイベント

文化財の魅力とまほろんの活動を広く県民に伝え、利用者の幅を広げることを目的としたものである。例年、季節ごとに複数回実施していたが、感染症対策として特定の日の集客を避けるため、文化の日にちなみ11月を『まほろん感謝月間』として月を通して開催した。

内容は、「まほろん秋のクイズラリー」と連携して、期間中だけの特典として、参加者にはまほろんオリジナルグッズや企画展に関連した記念品を進呈した。また、10月31日と11月1日の2日間にはオープニングイベントとして「アクアマリンふくしま移動水族館」を招いた。

3) まほろん森の塾

『まほろん森の塾』は、小・中学生を募集対象として実施する通年型の体験学習講座である。昔のくらしや技術を体験することにより、文化財に対する理解と生きる力を身に着けることを目的に実施している。

まほろん森の塾実施状況

内容	実施日	参加人数
第1回 入塾式・灯芯づくり	令2.8.30	4名
第2回 灯明皿づくり・アブラナの種植え	令2.10.11	4名
第3回 ミニ行灯づくり・アブラナの観察	令2.11.15	5名
第4回 油絞り・行灯点灯・修了式	令2.12.20	4名
合計		17名

※なお、令和3年1月10日に、最終回欠席者1名に対し補講を行った。

感染症の拡大から、第1回を8月30日とし、全4回の実施とした。〈明かり〉をテーマとし、灯明皿、ミニ行灯を作り、油を搾って明かりをとす体験を実施した。感染症対策から、例年の活動とは異なり、塾生どうしの共同作業やコミュニケーションの機会が十分に取れず、次年度以降に課題を残した。



まほろん森の塾

(3) 館外体験学習事業

『おでかけまほろん』として、県内の学校や社会教育施設における体験学習を支援するための事業である。まほろんへの来館が困難であるなどの理由で申請のあった学校や諸施設に対して、白河館職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて出向き、文化財や地域の歴史に対する理解を深めることを目的としている。

感染症対策のため、日程を9月以降に再調整したところ、感染リスクの回避などで5校・施設が辞退し、残りの8校・施設で実施した。

体験活動の内容は、実施校・施設で事前に担当者と打ち合わせを行い、「土器や石器を観察しよう」を必須として、感染症対策を考慮しながら「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」「弓矢体験」などを適宜加えて実施した。



おでかけまほろん

おでかけまほろん実施状況

No.	学校名	学年・科目	体 験 内 容	実施日	参加人数
1	二本松市立杉田小学校	小6年、総合	杉田周辺の文化財について・土器石器観察・勾玉づくり	9月3日(木)	32名
2	喜多方市立第二小学校	小6年、社会	学校周辺の文化財について・土器石器観察・火おこし	9月10日(木)	64名
3	いわき市立汐見が丘小学校	小6年、社会	学校周辺の遺跡と文化財について・土器石器観察・勾玉づくり	9月17日(木)	26名
4	相馬市立大野小学校	小6年、社会	遺跡や遺物、勾玉について・土器石器観察・勾玉づくり	10月8日(木)	28名
5	南相馬市立太田小学校	小3・4年、社会	火おこし・弓矢	10月22日(木)	18名
		小5・6年、社会	太田小学校周辺の遺跡と文化財について・土器石器観察・火おこし		18名
6	昭和村立昭和中学校・小学校	小6・中1年、社会	学校周辺の遺跡や文化財について・土器石器観察・本格的な土器づくり体験(土器焼成)	10月29日(木)	21名
7	喜多方市立上三宮小学校	小6年、社会	学校周辺の遺跡や文化財について・土器石器観察・勾玉づくり	11月18日(水)	12名
8	二本松市立塩沢公民館	高齢者学級	塩沢地区の遺跡について・土器石器観察・勾玉づくり	12月17日(木)	38名
合計					257名

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

令和2年度のホームページアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は38,737件であった（前年度：51,148件）。総アクセス件数が30,000件台となったのは2003年以来である。

なお、平成13年7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、85万件を超えた。

◆全国遺跡報告総覧

埋蔵文化財の発掘調査報告書を全文電子化して、インターネット上で検索・閲覧できる「全国遺跡報告総覧」に福島県教育委員会が刊行した文化財調査報告書、福島県文化財センター白河館が刊行した刊行物等を掲載している。令和3年3月31日時点で、文化財調査報告書119件、白河館の刊行物等70件のファイルを公開しており、47,262件のアクセスがあった。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,217	822,683
5月	3,311	825,994
6月	3,462	829,456
7月	3,344	832,800
8月	3,254	836,054
9月	3,044	839,098
10月	3,308	842,406
11月	3,025	845,431
12月	2,865	848,296
1月	3,179	851,475
2月	2,873	854,348
3月	2,855	857,203
合計	38,737	

2. SNSによる情報発信

令和2年度から、SNSの運用を正式に開始した。運用しているSNSは、「Instagram」、「Youtube」の2つである。

◆Instagram

毎週水曜日・土曜日の2回の更新を基本として運用している。記事は職員の輪番制で作成し、展示や体験活動の様子を公開している。令和3年3月31日時点でのフォロワー数は639名である。

◆Youtube

企画展関連動画を中心に発信している。令和3年3月31日時点でのチャンネル登録者数は

48名、動画の再生回数は3,647回である。

3. まほろん通信の発行

令和2年度は、年4回発行した。発行日は、4月15日・7月8日・10月14日・1月27日で、各4,000部を発行し、ホームページ上にも掲載した。概要は、以下のとおりである。

（1）まほろん通信vol.75(春号4月15日発行)

- ・特集1「エピデミックと木簡」
- ・特集2「実技講座『大堀相馬焼に挑戦』」
- ・シリーズ収蔵資料紹介31「特別な？火おこし道具」
- ・コラム「電気がない時代の家にミニ行灯を灯して」

（2）まほろん通信vol.76(夏号7月8日発行)

- ・「わかったこととわからないこと」を知る展示特別展『ふくしま発掘最前線—十三遺跡記—』
- ・楽しい◎まほろん◎どんなところ？「土偶を探してみよう」
- ・発掘よもやま話「かつつあの技」
- ・まほろんで働く学芸員のお仕事のほんの一部を紹介します「学芸員の一日」
- ・収蔵資料紹介「三春町蛇石前遺跡出土縄文土器」



まほろん通信vol.77

(3) まほろん通信vol.77(秋号10月14日発行)

- ・「『古墳時代』？どんな暮らし？」
- ・挑戦しよう体験活動室メニュー「はにわは何色??」
- ・収蔵資料紹介「矢吹町笹目平遺跡出土 棹秤の錘」
- ・「どうして大切？文化財」

(4) まほろん通信vol.78(冬号 1月27日発行)

- ・「おしえて！法正尻遺跡展1 担当者インタビュー」
- ・「もっと知りたい！企画展 法正尻遺跡の縄文土器」
- ・「作ってドキドキ思いを馳せて」

6 文化財に関する研修及び技術支援

1. 概要

文化財関係業務を担当する市町村等の職員を対象に、文化財の保護・活用に必要な知識と技術を習得するための基礎研修・専門研修を行った。令和2年度は、文化財保護法改定に伴う文化財行政の課題や、被災文化財の保全、最新の文化財調査方法を扱う内容とした。このうち、文化財防災研修については、福島県博物館連絡協議会との共催とし、市町村文化財担当者だけでなく、協議会加盟館まで対象を拡大して開催した。

特別研修は、市町村からの求めに応じて、館内外で臨時的に実施した。内容は石器の写真撮影実習、水損資料保全に関する講義などである。

市町村文化財担当職員への技術支援については、文化財の保存に関する技術について、市町村等からの要望に応じて、当館職員を現地に派遣して助言や協力を行うものである。6自治体に対して計7回実施した。また、福島県文化振興財団が調査を受託する川俣町前田遺跡の脆弱遺物の保管及び保存処理に係る指導も実施した。

2. 研修実施状況

(1) 基礎研修

基礎研修に「文化財保護行政実務者研修」と題する課程を設置し、2回開催した。文化財の保護・活用における実務をテーマとし、各参加者が発言可能な懇談形式及び実習を伴う内容と

した。また、参加者の募集については、市町村の文化財担当者が公務出張にできるよう開催日を平日に設定した。新型コロナウイルス感染症対策のため人数制限を設けたが、計18名の参加者があったことから見て、概ねニーズに合っていたものと判断される。

1) 「第1回文化財保護行政実務者研修」

テーマを「市町村文化財担当者懇談会」とし、8月7日(金)に開催した。参加者がそれぞれの自治体で抱える悩みや問題点を発表したのち、懇談形式で意見交換を行った。7市町村7名の参加があった。

2) 「第2回文化財保護行政実務者研修」

テーマを「文化財防災研修」とし、12月16日(水)に福島県博物館連絡協議会との共催で開催した。白河館中尾真梨子による「文化財の防災・保全に関する講義と実習」の講義、実習を行った。11市町村13名の参加があった。



第1回文化財保護行政実務者研修

(2) 専門研修

2回の専門研修を実施した。

1) 「文化財保護指導者研修会」

市町村の文化財保護審議委員等を対象に、毎年会場を変えて行う研修会である。令和2年度は、福島市を会場として、10月15日(木)・16日(金)に実施した。1日目は、福島県文化振興財団遺跡調査部吉田秀享氏による「川俣町前田遺跡の意味するもの」、白河館本間宏による「市町村における文化財保護の課題」、福島県教育庁文化財課山本友紀氏による「福島県文化財保存活用大綱について」、福島市建設部河川課佐久間智明氏による「荒川流域の総合治

水システムと土木遺産」の講義を行った。

2日目は、福島市民家園、旧霞堤、荒川資料室の現地見学を行った。参加者は延べ112名だった。



文化財保護指導者研修会

2)「デジタル画像を用いた遺構実測研修」

文化財担当者に対する専門技術の習得を目的とした研修で、1月22日(金)に開催した。募集対象を県内各市町村の文化財担当部署・博物館・資料館、公社・事業団等において文化財の調査を行う職員とした。白河館鶴見諒平による「遺構実測に利用できるデジタル技術について」



デジタル画像を用いた遺構実測研修

文化財研修実施状況

区分	研 修 名	講 師 等	実施日	受講者数	場所
基礎研修	第1回文化財保護行政実務者研修	進行 本間 宏(白河館職員)	令2.8.7	7名	白河館
	第2回文化財保護行政実務者研修	中尾真梨子(白河館職員)	令2.12.16	13名	白河館
専門研修	文化財保護指導者研修会	山本友紀(福島県教育庁文化財課) 佐久間智明(福島市建設部河川課) 吉田秀享(福島県文化振興財団遺跡調査部) 本間 宏(白河館職員)	令2.10.15 ～ 16	延べ 112名	福島市
	デジタル画像を用いた遺構実測研修	鶴見諒平(白河館職員)	令3.1.22	6名	白河館
特別研修	臨時館外研修「水害等により水損した文化財等の取り扱いについての講演(福島県高等学校司書研修会県南部会の依頼による)」	中尾真梨子(白河館職員)	令2.11.19	22名	郡山市
	臨時館内研修「石器写真撮影にかかる研修(大玉村の依頼による)」	門脇秀典(白河館職員)	令2.12.5	2名	白河館

の講義、実習を行った。6市町村6名の参加があった。

(3) 特別研修

臨時館内研修と臨時館外研修を各1回実施した。臨時館内研修は、大玉村教育委員会からの依頼で12月5日(土)に「石器写真撮影にかかる研修」、臨時館外研修は、福島県高等学校司書研修会県南部会からの依頼で11月19日(木)に「水害等により水損した文化財等の取り扱いについて」の講演を行った。



臨時館内研修

3. 技術支援状況

市町村文化財担当職員への技術支援については、6自治体に対して計7回行った。

このうち2件は、令和元年東日本台風による被災文化財への支援である。また、1件は2021年2月に発生した宮城県沖地震による被災文化財への支援である。

ほか、出土脆弱遺物の保全、発掘調査現場における土層断面の剥ぎ取り、石造文化財の保全などの支援を行った。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 文化財の調査

白河館に収蔵されている金属製品、木製品、土器、土製品等について、X線CT、三次元計測、材質同定等による詳細観察と理化学的分析を実施する事業である。

令和2年度は、筑内古墳群出土馬具の、X線CT透過撮影による構造調査、蛍光X線分析による材質調査を実施した。

2. 体験学習における試み

ガラスの製作実験、たが編み、埴輪の彩色など、考古学や民俗学等の成果を加味した体験学習メニューを考案して実施した。

3. 文化財等に関する情報収集

(1) 研修会等への参加

福島県博物館連絡協議会主催の研修会等において最新の情報収集を行った。

(2) 現地調査の実施

市町村文化財行政の現状と課題を把握するための現地調査を2回行った。

4. 研究紀要

「収蔵資料に関する理化学的分析（2019～2020年度）」等を収録した『研究紀要19』を500部作成して関係機関に送付し、ホームページで公開した。

8 出土文化財の保存処理

令和2年度は、福島県教育委員会が実施した発掘調査により出土した木質・金属質遺物等について、劣化防止等業務、保存処理業務、分類・データベース入力業務を実施した。

1. 劣化防止等業務

次の方法により、4,776件の劣化防止措置を行った。

(1) 木質遺物

2,862件の劣化防止措置を行った。

水浸保存を図っている木質遺物（以下、水浸

け遺物）について、劣化状態等の確認を行い、バクテリア等の劣化を促進させる付着物が発生している遺物については、筆等による除去及び洗浄を行った。洗浄を終えた水漬け遺物は、新たな保存液を入れなおし、可能なかぎり脱気した状態で封入した。

また、水浸け遺物の劣化状態を客観的に把握するため、推定含水率を測定した。

(2) 金属質遺物

1,174件の劣化防止措置を行った。

脱酸素剤封入済みの金属質遺物について、遺物の形状変化及び無酸素状態指示剤の変色度合いの確認を行った。無酸素状態指示剤に青色の変色が確認された遺物については、脱酸素剤及び無酸素状態指示剤を交換した。

その他、必要に応じて、腐食（錆）の進行の要因となる付着物（土壌や錆）を除去するクリーニング作業等を行った。

(3) 動植物遺存体

木質遺物と同様の判断基準に従い、740件の劣化防止措置を行った。

劣化状態及び現有数の再確認作業を行い、その結果をもとに台帳整理を行った。

劣化防止措置実施状況

劣化防止数		
4,776件		
内訳	木質遺物	2,862件
	金属質遺物	1,174件
	その他（動植物遺存体）	740件

2. 保存処理業務

200点の保存処理を行った。このうち、白河館の施設・設備で処理を行うことが困難な100点（大森遺跡ほか出土木質遺物58点、江平遺跡ほか出土金属質遺物42点）については、専門業者に業務を委託した。その他の100点（桜町遺跡ほか出土木質遺物39点、登戸遺跡ほか出土金属質遺物61点）については、以下の手順により白河館内で保存処理を行った。

(1) 木質遺物

木質遺物の保存処理は、樹種、状態、器種等によって処理方法を変える必要がある。このため、令和2年度の対象遺物については、ポリエチレングリコール含浸法および凍結真空乾燥法で処理可能な資料を選択した。

ポリエチレングリコール含浸法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤表面処理⑥記録作成の工程で行った。凍結真空乾燥法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤予備凍結・真空乾燥⑥表面処理⑦記録作成の工程で行った。

(2) 金属質遺物

金属質遺物は全て青銅製であったため、①事前調査②クリーニング③安定化处理④記録作成の工程で保存処理を行った。

事前調査では、遺物の現状確認のほか、X線透過撮影による構造等調査、蛍光X線分析顕微鏡による定性分析等を行った。

保存処理業務実施状況

保存処理数	
200件	
内訳 木質遺物	97件
金属質遺物	103件

3. 分類・データベース入力業務

データベース入力および分類業務は、報告書未掲載の鉄製品についての分類データベースを600件入力した。

9 ボランティア活動の支援

1. 募 集

令和2年度は、前年度同様、ボランティアを随時募集し、月毎に登録を行った。

申し込み資格は、①令和2年4月1日現在で16歳以上、②無償で活動できる方（保険料は白河館負担）である。

2. 登 録

ボランティアの名称を『まほろんボランティア

ア』と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」としている。ボランティアの登録状況は下表のとおりである。

まほろんボランティア登録状況

令和2年度登録者数	33名 (男性17名・女性16名)
内訳	
1. 最年少	18歳
2. 最年長	81歳
3. 平均年齢	55歳 (男性53歳、女58歳) (平成3年3月31日現在)

3. 活動内容

令和2年1月頃からの新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度のボランティア活動は大幅な制限を余儀なくされた。

例年行っているボランティア活動のうち、屋内展示・野外展示の案内・解説、展示業務への参加、体験学習活動（実技講座・団体対応等）への協力、イベントの自主企画及び運営、体験学習器材の製作等は、いずれも感染防止の観点から実施を見送り、野外展示施設の火焚き燻蒸に限り活動を行った。

このほか、企画展の内覧会の際にボランティアにも参加を呼びかけるなどした。



まほろんボランティア連絡会

4. 支援体制

白河館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則としている。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩場所の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、スケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、令和2年度は計2回の会合（まほろんボランティア連絡会）を開催した。

10 その他

1. 年報の発行

令和元年度の館の管理運営実績をまとめた『年報～令和元年度実績～』を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に配布した。

2. 運営協議会の開催

館長の諮問機関として、福島県文化財センター白河館運営協議会を組織し、会議を開催した。

なお、令和2年度の委員6名は次のとおり。

- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任
- ・柳沼 賢治：福島大学客員教授、新任
- ・平出美穂子：元郡山女子大学准教授、再任
- ・小玉 昭男：西白河小中学校長連合協議会長
- ・井上 健一：白河市建設部文化財課長
- ・金子 豊：国立那須甲子青少年自然の家所長

（1）第1回運営協議会

開催日：令和2年10月10日（土）

場 所：講堂

議 事

- ・令和元年度白河館の事業実績について
- ・令和2年度白河館の運営状況について
- ・平成3年度白河館の事業について
- ・その他

（2）第2回運営協議会

開催日：令和3年3月13日（土）

場 所：講堂

議 事

- ・令和2年度白河館の運営状況について
- ・平成3年度白河館の事業について
- ・その他

3. 博物館実習

県内の大学生や、県内出身者で県外の大学に

通う大学生を対象として、館内において博物館実習を行った。



博物館実習

4. 被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

原子力災害による避難指示区域内の資料館から白河館仮保管施設に移送された文化財について、資料の修理安定化、データベース入力、応急的劣化防止作業などを実施した。

5. 他機関との連携

自治体・教育普及機関・研究機関等と連携して、以下の事業を実施した。

（1）まほろん移動展の実施

1) 「ふくしま鉄ものがたり」

内容：令和元年度に実施した同名の企画展をダイジェスト的に展示したもので、以下の3カ所で開催した。

①福島県立図書館

会期：令和2年6月5日（金）～7月1日（水）

観覧者数：9,197名

②富岡町文化交流センター学びの森

会期：令和2年8月1日（土）～8月30日（日）

観覧者数：764名

③南相馬市小高交流センター

会期：令和2年9月2日（水）～10月11日（日）

観覧者数：774名



まほろん移動展「ふくしま鉄ものがたり」福島県立図書館

2) 「ようこそ！古墳時代へ」

内容：令和2年度秋に実施した同名の企画展をダイジェスト的に展示するもので、以下の1カ所で実施した。

場所：矢吹町ふるさとの森芸術村

会期：令和3年1月15日（金）～3月18日（木）

観覧者数：779名

（2）ふくしま海洋科学館との連携

1) 移動水族館（アクアラバン）開催

実施日：令和2年10月31日（土）・11月1日（日）（まほろん感謝月間オープニング企画）

場所：白河館正面玄関前

観覧者数：937名



移動水族館（アクアラバン）

（3）その他

1) 館外イベントへの出展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となったイベントが多く、実施しなかった。

2) 福島県被災文化財等救援本部の一員として文化財の保護に取り組んだ。また、ふくしま歴史資料保存ネットワークの活動を支援した。

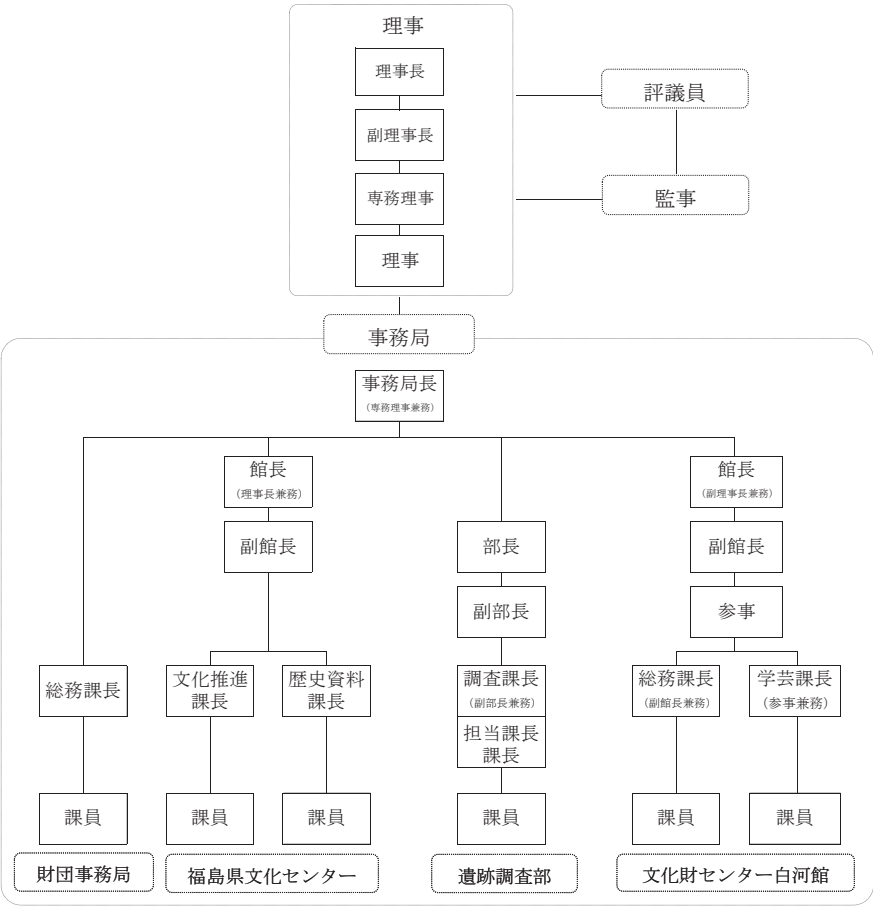
3) 日本博物館協会のWebサイトと月刊誌『博物館研究』に白河館に関する情報を提供した。また、福島県博物館連絡協議会の理事館として、県内博物館等の連携構築等に努めた。

4) 白河観光物産協会やNPO法人カルチャーネットワーク等と連携して白河館の情報を発信した。

5) 福島県博物館協議会との共催による文化財防災研修を実施した。

第3章 令和2年度の組織と管理運営費

1 組織



職員名簿

職 名		氏 名		職 名		氏 名	
館 長		菊 池 徹 夫		学芸課	専門学芸員	門 脇 秀 典	
副 館 長		鈴 木 秀 明			専門学芸員	笠 井 崇 吉	
参 事		本 間 宏			主任学芸員	廣 川 紀 子	
総務課	課長（副館長兼務）	鈴 木 秀 明			副主任学芸員	鶴 見 諒 平	
	主 幹	山 田 幸 則			副主任学芸員	中 尾 真 梨 子	
	主任主査	八 巻 裕 美 子			学芸員	和 知 千 紘	
	臨時職員	長 田 ち ひ ろ			学芸員	河 西 久 子	
	臨時職員	松 本 夏 樹			学芸員	武 熊 野 の 香	
学芸課	課長（参事兼務）	本 間 宏			学芸員	岸 浪 文 香	
	主 幹	佐々木 慎 一			臨時職員	佐 藤 百 合 恵	
	副主幹	山 元 出			臨時職員	原 宏 子	
	副主幹	阿 部 知 己			臨時職員	松 浦 里 美	
	専門学芸員	菅 原 祥 夫			臨時職員	鈴 木 未 来	
	専門学芸員	大 山 孝 正			臨時職員	久保木 裕 子	
				職員総数 26 名			

(令和3年3月31日現在)

2 白河館管理運営費

・ 指定管理者委託料 274,801千円

第4章 白河館施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理機関：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
(本館2,400.046㎡、収蔵庫棟 2,999.769㎡)
体験学習館 92.71㎡

4. 構造

- ①本館棟 鉄筋コンクリート造
- ②収蔵庫棟 鉄骨造
- ③体験学習館 木造

5. 駐車台数等

- ①一般駐車場 91台 (うち身障者用4台)
- ②大型車駐車場 10台
- ③職員駐車場 21台
- ④駐輪場 28台

6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：

- ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
- ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
- ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
- ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
- ・電話設備：電子交換機、外線4回線
- ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

- ・空調方式
一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式 (一部空冷HP) + 静止型全熱交

換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト (空冷冷専パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット) 方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト (ガスエンジンHPP) 方式

- ・熱源：簡易ガス (ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水：屋内分流・屋外合流 (最終桝でポンプアップ) 方式で下水道本管へ放流
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所 (男女別)、屋外1箇所 (男女別)、トイレ呼出設備付

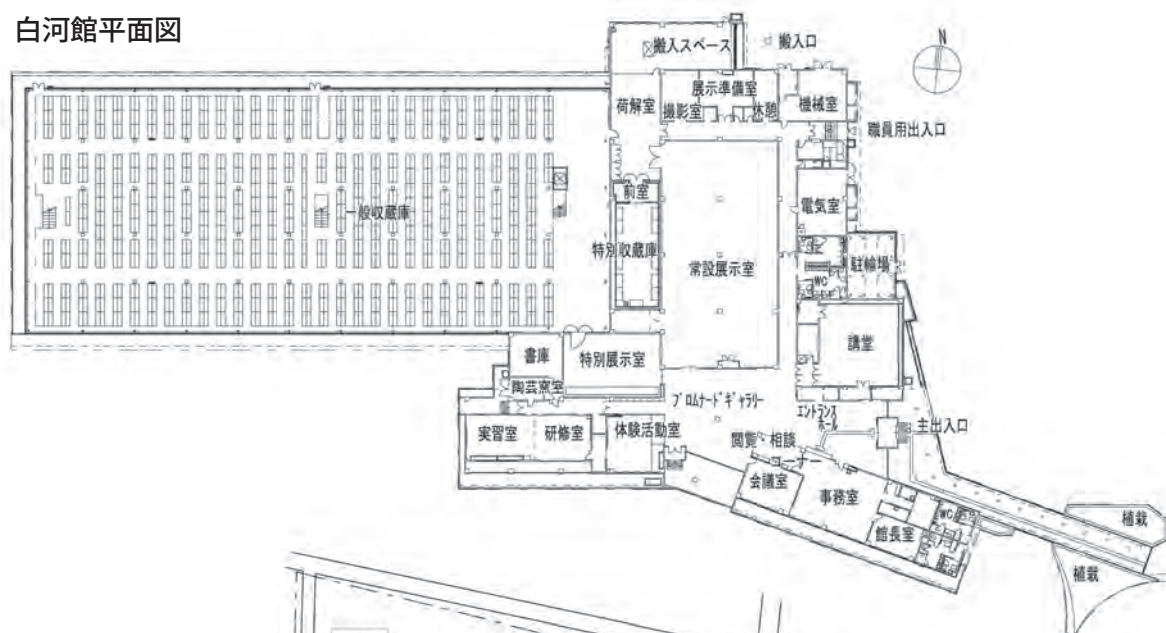
◎建築工事工期

- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

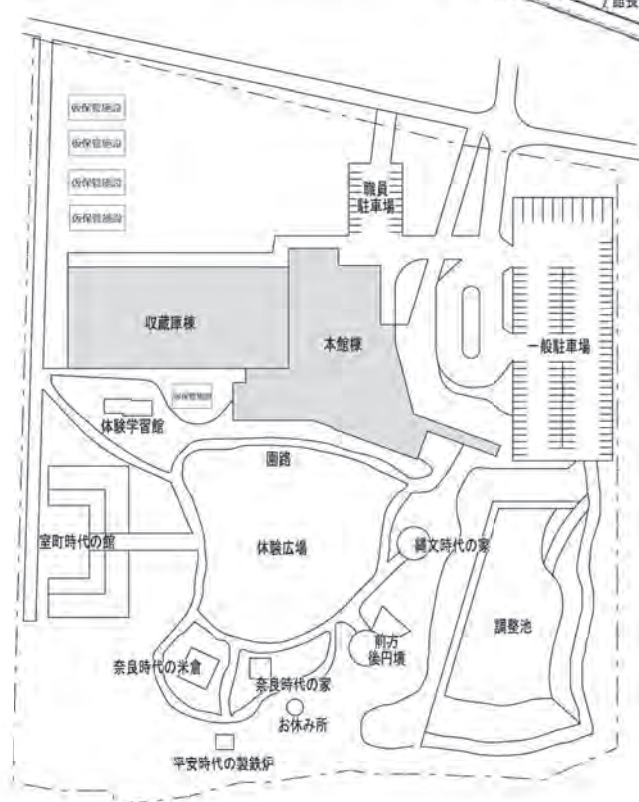
◎総建設費 3,300,625千円

- | | | |
|-----|---------|-------------|
| ・内訳 | 建築費 | 2,690,848千円 |
| | 公有財産購入費 | 222,095千円 |
| | その他の経費 | 387,682千円 |

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263㎡
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	889	5棟 (194㎡×4棟+113㎡)

第5章 白河館の条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

一 第三条各号に掲げる業務に関すること。

二 白河館の維持管理に関すること。

三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。

3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八年条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。

(施行の日＝平成一三年七月一五日)

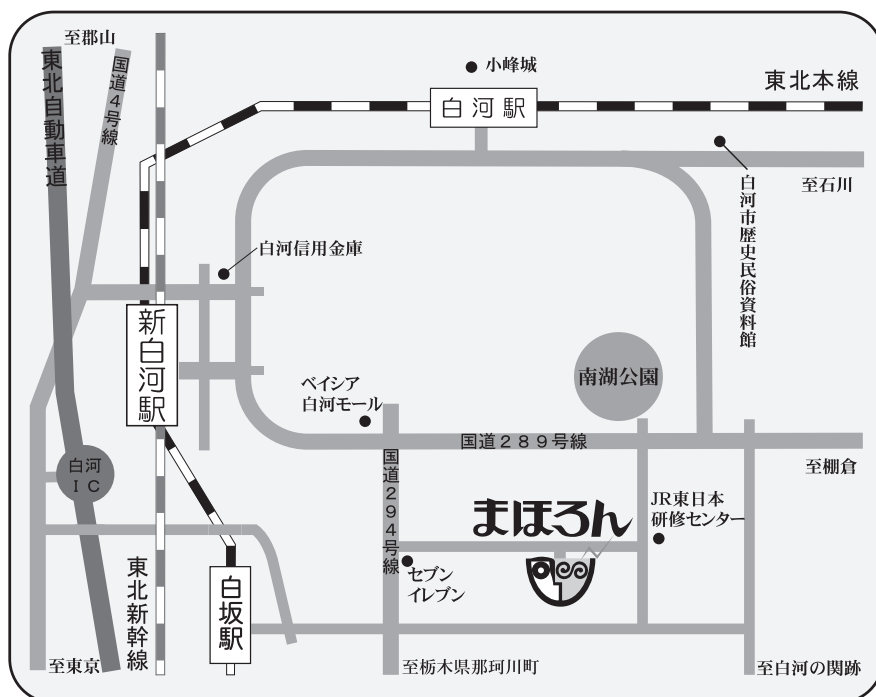
附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する

白河館の利用案内

- 開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日・振替休日の場合はその翌日）
- ・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
- ・ 年末年始（12月28日～1月4日）
- 入 館 料 ・ 無料
- 交通案内 ・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまたは、福島交通バス（白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

- ・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から J R バス（棚倉行き）南湖公園バス停下車徒歩25分
- ・ 東北自動車道白河 I C から車で20分
- そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館 年報 ～令和 2 年度実績～

令和 4 年 3 月 19 日 発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<https://www.fcp.or.jp/mahoron/>
